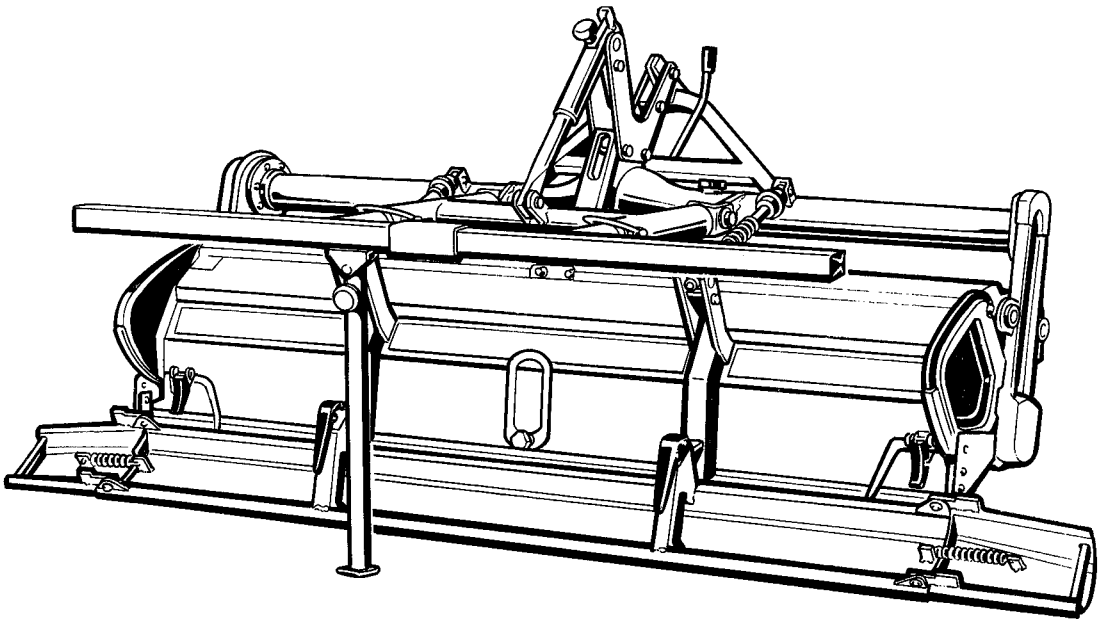
クボタロータリ

取扱説明書

RM 170G(H)(E)
180G(H)(E)(EA)
190G(E)(EA)



G-4661

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警　告**：　注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：　注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重　要：　注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：　その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明はRM170Gを基本とし，RM170Gと取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

- ●標準タイプ …… 一般向け (RM170G, RM180G, RM190G)
- ●Hタイプ …… ウルトラロータリ (RM170G-H, RM180G-H)
- ●Eタイプ …… Eスペシャル(後2輪付) (RM170G-E, RM180G-E, RM190G-E)
- ●EAタイプ …… Eスペシャル(スタンド付) (RM180G-EA, RM190G-EA)
- ●Bタイプ …… 後2輪付，(他はスタンド付)
- ●カバータイプ
  - ・標準カバー …… 畝立機用長穴付
  - ・SCカバー …… マッドレスカバー・畝立機用長穴付

7E607-5752-3

目　次

⚠安全に作業するために…… ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1

ロータリの着脱のしかた …… 1
取付け前の準備 …… 1
ロータリの取付け方法と適応形式 …… 2
けん引ヒッチを外す …… 3
トップリンクサポートの取付け
(補助ユニット関連部品) …… 3
取付け方 …… 3
取付け方(スーパーGLドラフト仕様) … 4
取外し方 …… 4
トラクタへの装着 …… 4
装着前の準備 …… 4
取付け方 …… 6
ロータリの取外し方 …… 9

標準ロータリの上手な使い方 …… 10
適応作業速度 …… 10
なた爪の取付け方 …… 11
一般タイプ …… 11
草切爪(Eタイプを除く) …… 12
草巻付き防止ワイヤ
(Eタイプを除く) …… 12
マッドレスロータリの取扱い(SC仕様) … 16

ロータリの調整 …… 17
ロータリカバーの調整 …… 17
フラップカバーの使用法 …… 17
フラップカバーの取外し方 …… 18
フラップカバーの取付け方 …… 18
補助カバーR·Lの取外し方 …… 18
防土カバーの上手な使い方
(Eタイプ以外) …… 19
サイドカバーの上手な使い方 …… 19
耕深の調整(後2輪仕様) …… 19
後2輪の調整(後2輪仕様) …… 20
後2輪ホルダの前後調整 …… 20
上下調整 …… 20
スプリングロックの調整(Eタイプ以外) … 21
スプリングロックの操作方法 …… 21
オートハンガの調整 …… 22
フローティング装置(別売オプション) …… 22
ロングカット爪の取付け(別売オプション)… 23
畝立機の取付け(別売オプション) …… 24
片培土機の取付け …… 24
取付け方 …… 25
逆転PTOの使用方法 …… 25
爪軸交換のしかた …… 26
普通爪の使用 …… 26

作業前の点検について(日常点検) …… 27
点検箇所 …… 27
点検のしかた …… 27

ロータリの簡単な手入れと処置 …… 28
定期点検箇所一覧表 …… 28
各部の油量点検と交換 …… 29
ギヤーケース …… 29
チェーンケース …… 29
グリースの補給 …… 30
ユニバーサルジョイント …… 30
アジャスタ(後2輪調整ネジ部) …… 30
爪軸ベアリングケース …… 30
ホルダ(ジョイント)，ロータリ入力軸
(スーパージョイント付) …… 30
Aフレーム各回動部 …… 31
スプリングロックしゅう動部 …… 31
オートハンガしゅう動部，回動部 …… 31
後2輪のグリースニップル部
(後2輪仕様) …… 31
シールの組換え …… 31

付表 …… 32
主要諸元 …… 32
標準ロータリ …… 32
標準付属品 …… 32
アタッチメント一覧表 …… 33
推奨オイル・グリース一覧表 …… 34
ギヤーオイル90番 …… 34
グリース …… 34
主な消耗部品一覧表 …… 35

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

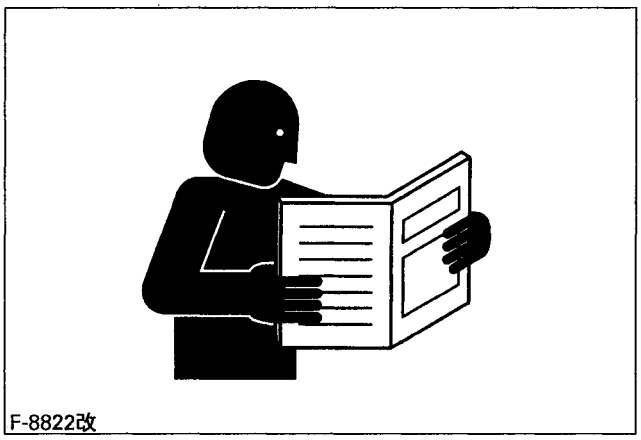
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．ロータリを使用する前に

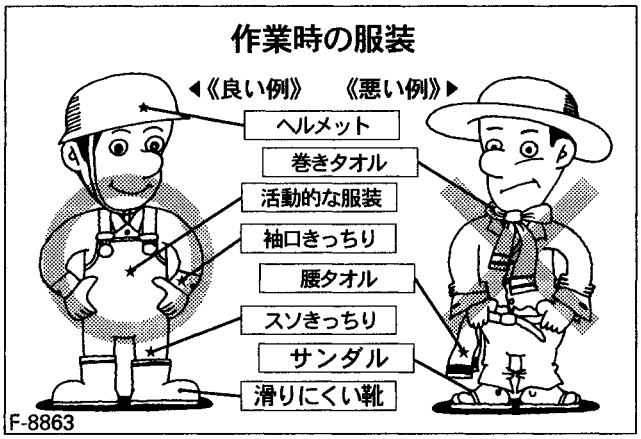
(1)ロータリを使用する前に，必ずこの取扱説明書とトラクタ本機の取扱説明書，及び機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で作業してください。

(2)ロータリを他人に貸すとき，また他人に作業を依頼するときは，事前に操作のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には，絶対に作業させないでください。


F-8822改

(4)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置に引掛かり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じて使ってください。



F-8863

2．ロータリの着脱時

(1)PTOを中立にして平たんな場所で行なってください。

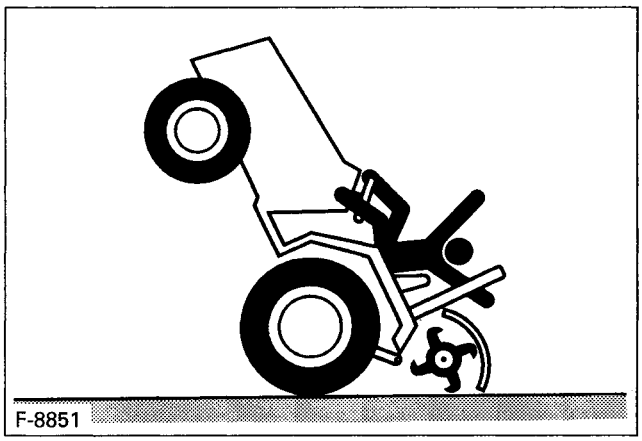
(2)トラクタとロータリの間に立たない，また立たせないでください。
挟まれるおそれがあります。

F-8848

(3)二人作業の場合はお互いに合図しあい，注意して作業してください。

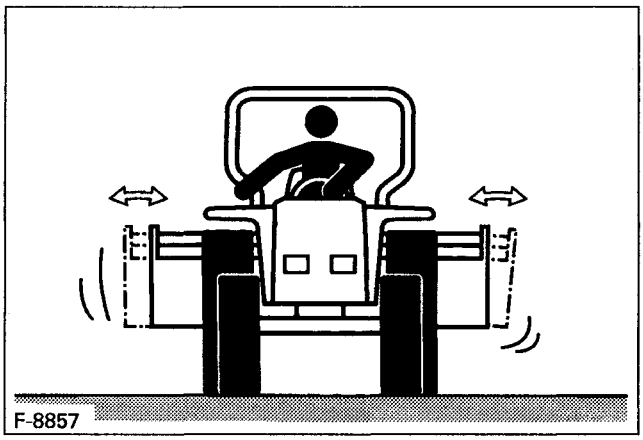
(4)3点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが，確実にセットされていることを確認してください。

(5)装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なりますので，前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。
前輪が浮上がり事故の原因になります。


F-8851

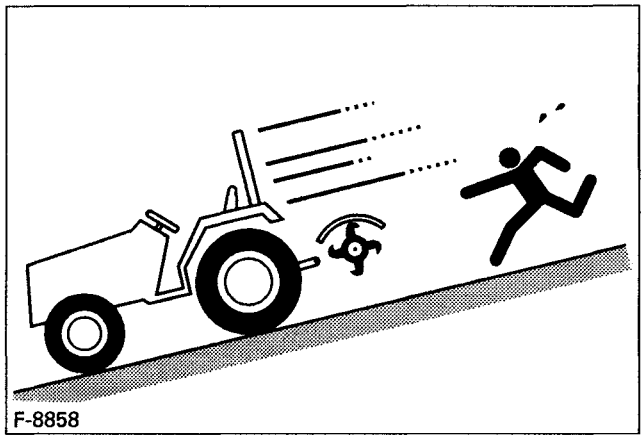
⚠ 安全に作業するために

(6)ロアーリンクのチェックチェーンは，ロータリが左右に２～３㎝動く程度に調節してください。
走行時，ロータリが揺れてバランスをくずし事故の原因になります。

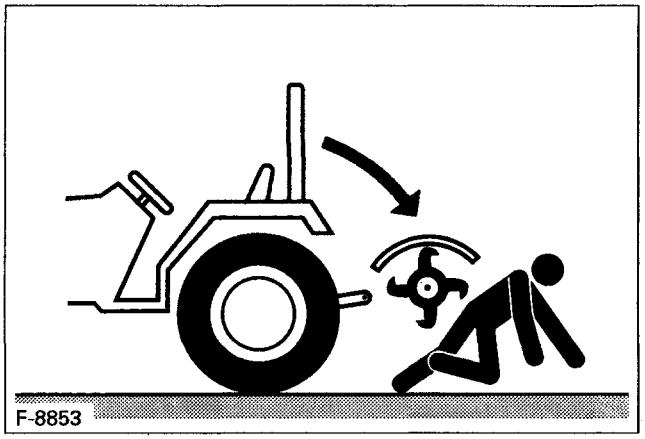


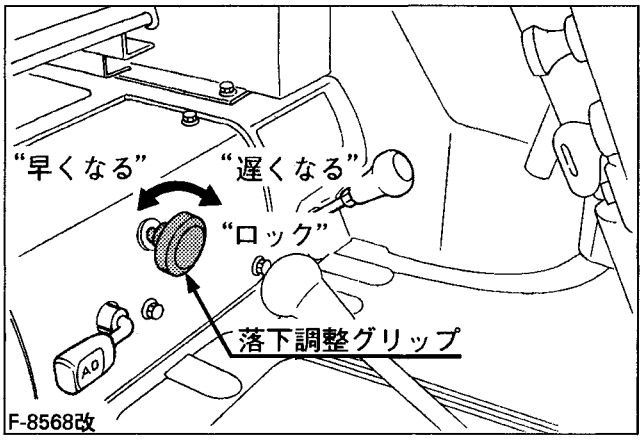
３．耕うん爪の点検や交換及び調整時

(1)トラクタを平たんな場所に置いてください。
(2)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。



(3)ロータリの落下防止のため油圧ロックをしてください。
ロータリが落下するおそれがあります。

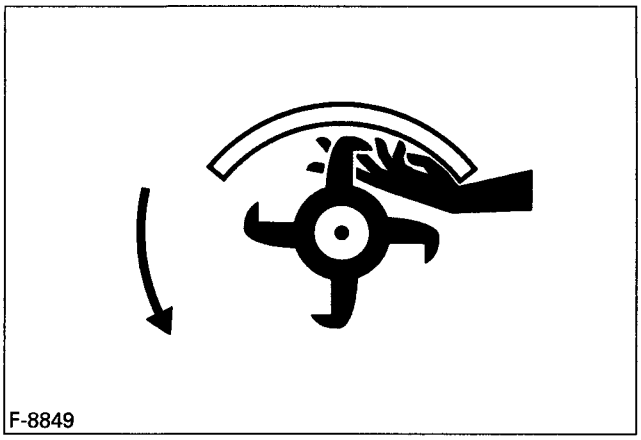




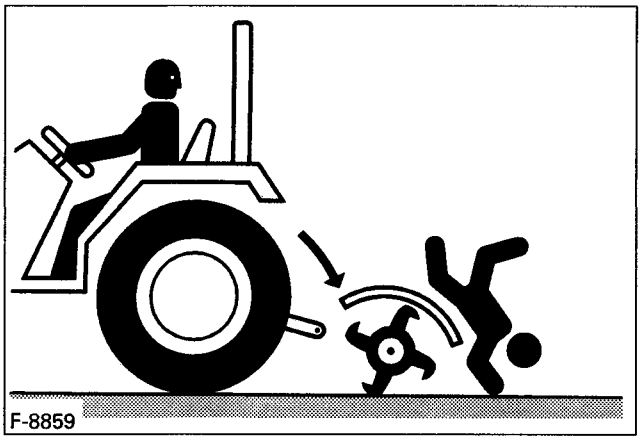
4．運転時

(1)安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。また紛失したり損傷した場合，交換してください。
巻込まれや切傷事故の原因になります。

(2)ユニバーサルジョイント，爪軸など回転部分には近づかないでください。
裂傷・巻込まれなど事故のおそれがあります。

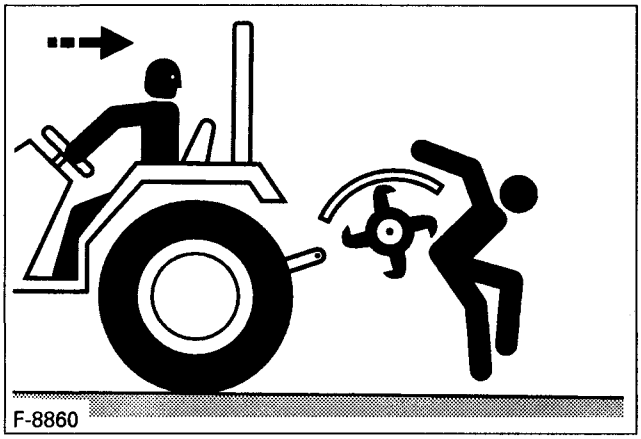

F-8849

(3)ロータリの上に人を乗せないでください。

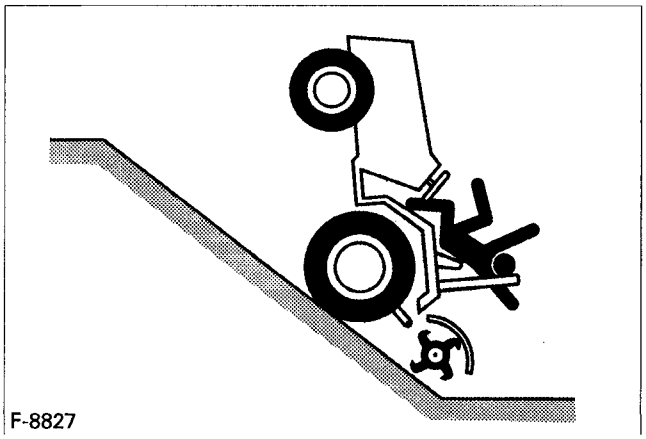

F-8859

(4)必ず座席に座ってロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。

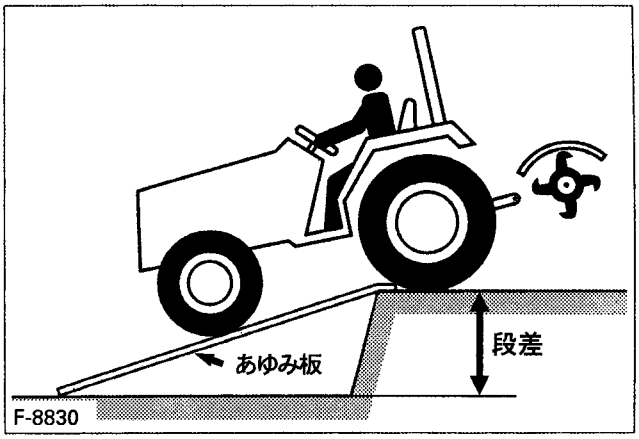
(5)ロータリを持上げ，バック及び急旋回するときは，周囲の安全確認を行なってください。


F-8860

(6)傾斜地やあぜを登るときは，転倒防止のためロータリを下げて前輪の浮上がりを防いでください。


F-8827

(7)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

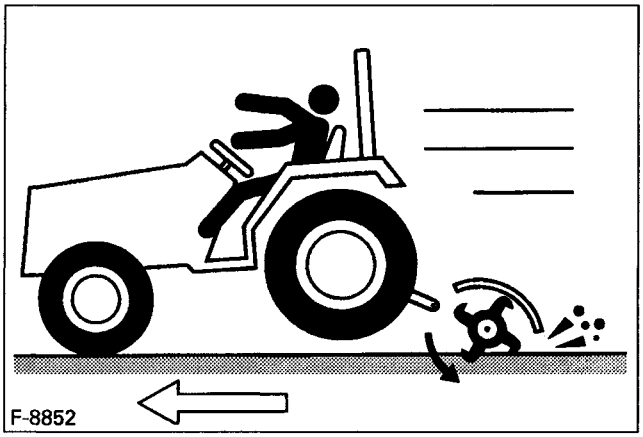


F-8830

あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。

⚠ 安全に作業するために

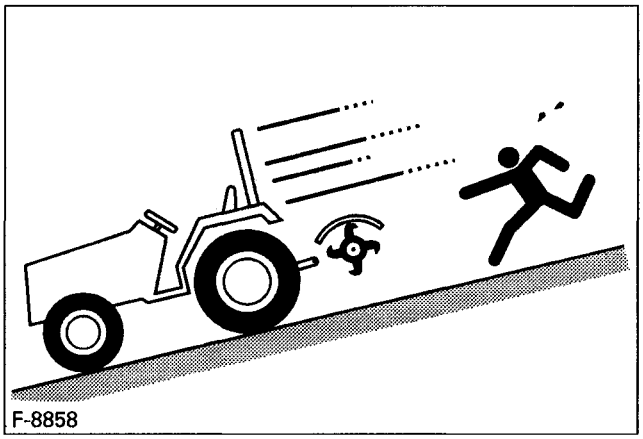
(8)耕うん中，硬いほ場でトラクタが前に飛出した場合，すぐクラッチを切りブレーキを踏んでください。次により遅い車速に変速し，爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。
２輪駆動，４輪駆動の切換え可能なトラクタは，４輪駆動にしてください。

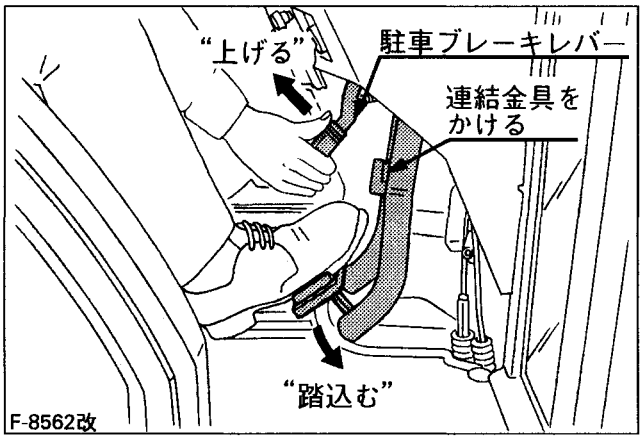


(9)ロータリをトラクタに装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引掛けて事故の原因になります。

5．格納時

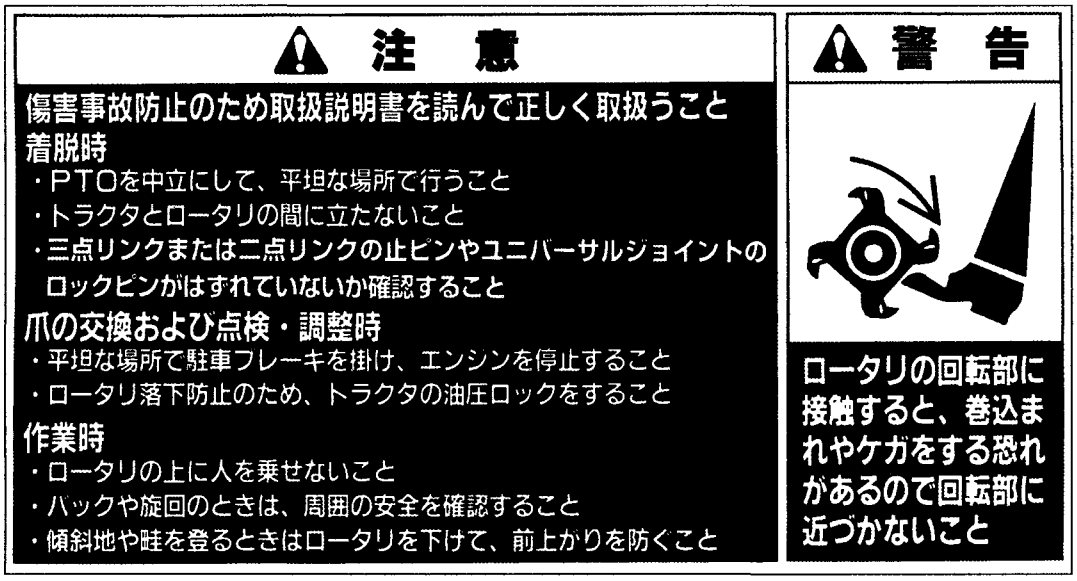
(1)トラクタを平たんな場所に置いてください。
(2)ロータリを下げ，地面に接地させてください。ロータリが落下するおそれがあります。
(3)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。





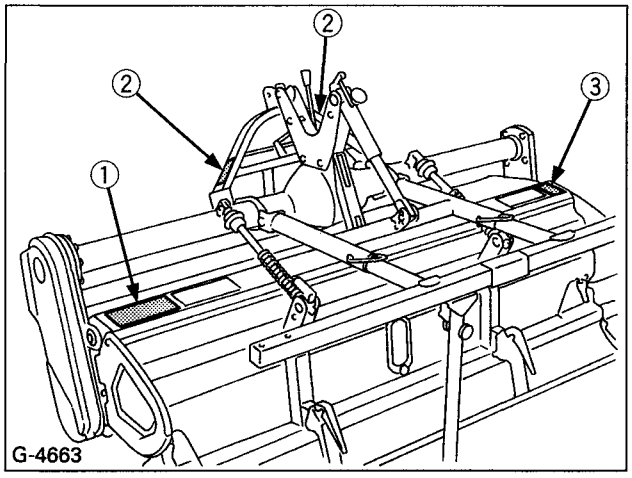
6．⚠表示ラベルと貼付位置

①品番　7C705-5646-2



②品番　7C705-5881-1

③品番　7F712-5613-1



7．⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

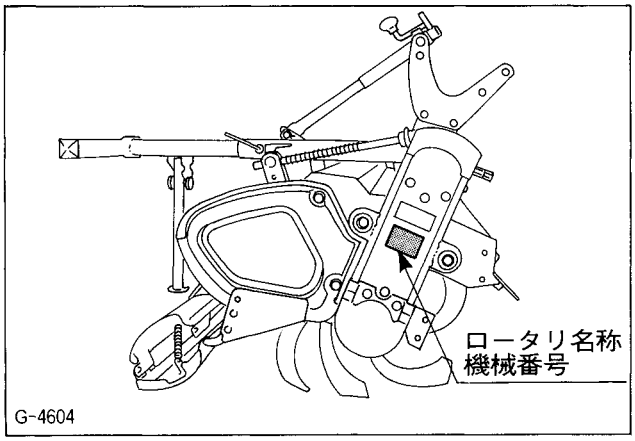
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますので，お気軽にご相談ください。
その際，ロータリ名称と機械番号をあわせてご連絡ください。
なお部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

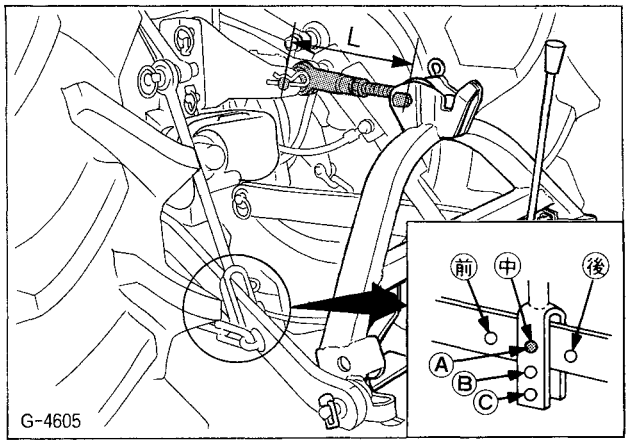
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



ロータリの着脱のしかた

取付け前の準備

(1)補助ユニット(トップリンクサポート，トップリンクなど)が，装着されているかを確認してください。装着されていないときは，**“トップリンクサポートの取付け”**の項を参照の上，装着してください。
(2)装着するトラクタにより，補助ユニットの種類及びトップリンク長さが異なりますので，右図と次ページの表又はトップリンクサポートに貼付けてあるラベルを確認の上，点検・調整してください。



注　意

＊補助ユニットの種類，トップリンク長さ，ロアーリンク穴位置，リフトロッド穴位置を間違うと，ジョイント抜けやトップリンクの破損などによる傷害事故のおそれがあります。
＊前部ウエイトの指示がある場合，トラクタに必ず取付けてください。
トラクタの前輪が浮上がり事故の原因になります。

■ロータリの取付け方法と適応形式
(この表は一般的な組合わせを示しています。)

トラクタ形式		GL367，GL417，GL467，L46
ロータリ形式 / 取付け方法		RM170G(H)(E)，RM180G(H)(E)(EA)，RM190G(E)(EA)
補助ユニット	スーパージョイント付	U360Q-7RF
	スーパージョイント無	U360-7RF
トップリンク長さ“L”寸法(㎜)		240
リフトロッド左，右の取付穴		Ⓑ
ロアーリンク取付穴		㊥

◆参考[ハイパワーGL，スーパーGLトラクタに装着する場合]

トラクタ形式		GL368, GL418	GL350, GL400, GL430	GL470
ロータリ形式 / 取付け方法		RM170G(E) RM180G(E)(EA)	RM170G(E) RM180G(E)(EA)	RM180G(E)(EA) RM190G(E)(EA)
補助ユニット	スーパージョイント付	U360Q-7RF	U350Q-6RF	
	スーパージョイント無	U360-7RF	U355-6RF	
トップリンク長さ“L”寸法(㎜)		240	210	
リフトロッド左，右の取付穴		Ⓑ		Ⓐ
ロアーリンク取付穴		㊥	㊦	

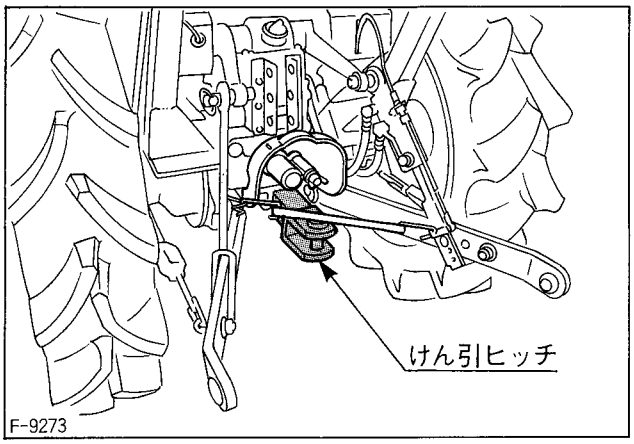
◎トップリンク長さ“L”寸法は装着時の目安とし，異音(ガラガラ音)が出る場合は±５㎜の範囲で調節してください。

[補助ユニット]

製品名	コードNo.
U360-7RF	7E600-01000
U360Q-7RF	7E600-02000
U355-6RF	70889-01000
U350Q-6RF	7E700-08000

■けん引ヒッチを外す

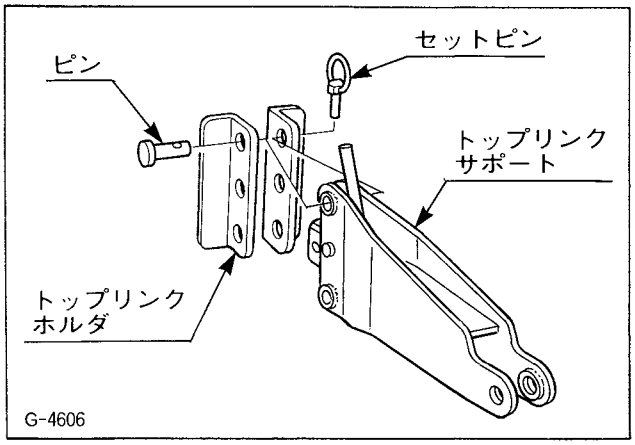
トラクタにけん引ヒッチが付いている場合は，事前に取外してください。



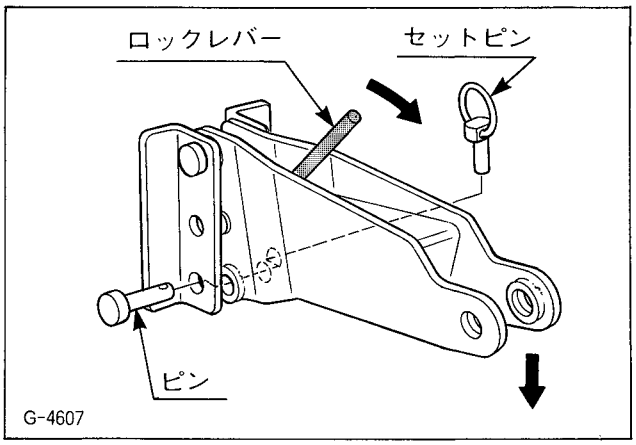
トップリンクサポートの取付け (補助ユニット関連部品)

■取付け方

❶トップリンクホルダの上穴と，トップリンクサポートの上穴をピンで取付け，セットピンで抜け止めをしてください。(トップリンクサポートの上下を間違わないよう，ラベルの方向又は補助ユニット一覧表を参照して取付けてください。)



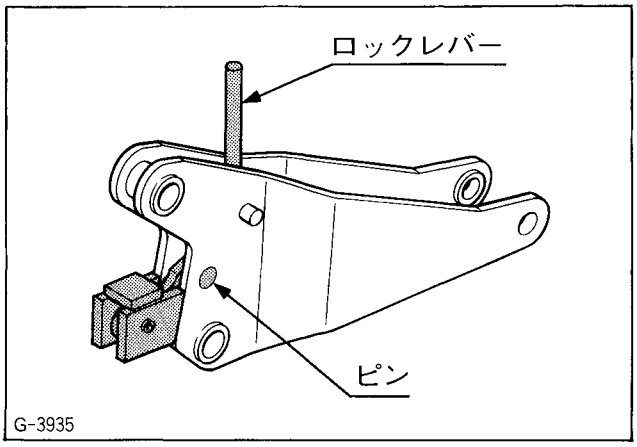
❷ロックレバーを手前に引き，トップリンクホルダの下穴と，トップリンクサポートの下穴をピンで取付け，セットピンで抜け止めをしてください。



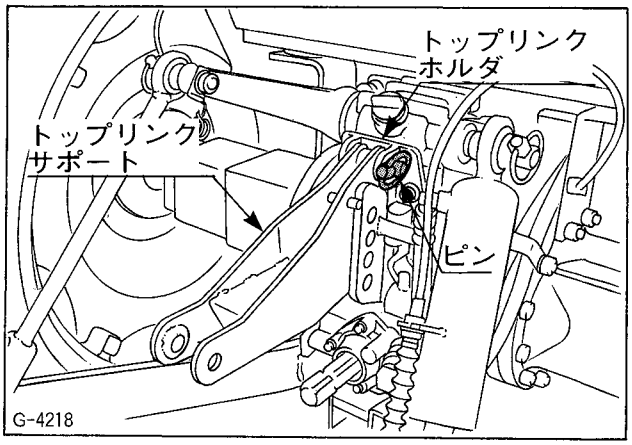
❸ロックレバーを前方に戻し，確実にロックしてください。

■(参考)取付け方(スーパーGLドラフト仕様)

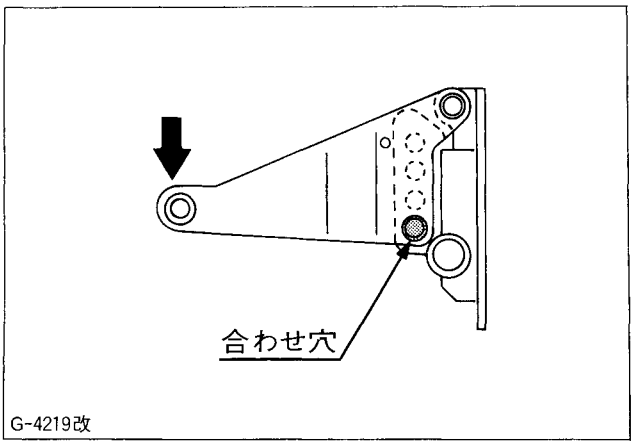
❶トラクタがドラフト仕様車の場合，装着する前に必ずピンを抜いて，ロックレバーを取外してください。



❷トップリンク取付け穴の上の穴にピンを挿入してください。



❸次にトップリンクサポート先端を手で押さえ，下部ピンの穴位置を一致させてください。



❹最後に下部ピンを挿入し，セットピンで抜け止めを行なってください。

■取外し方

取付け順序の逆に行なってください。

トラクタへの装着

注 意

＊ロータリの取付け・取外しはPTOを中立にし，平たんな場所で行なってください。
＊トラクタとロータリの間には立たないでください。はさまれるおそれがあります。

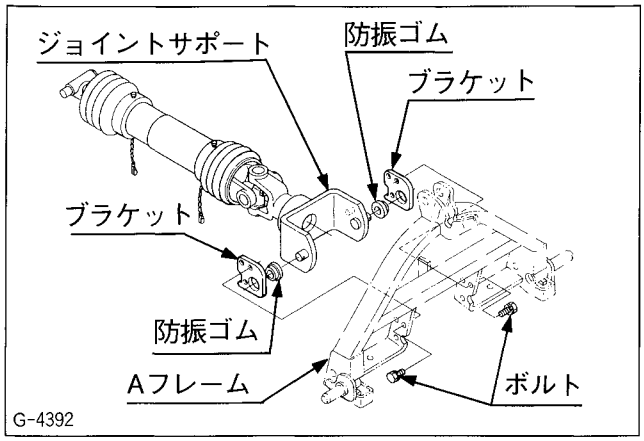
重 要

＊安全カバー回転止め鎖で，ユニバーサルジョイントを吊らないでください。

■装着前の準備

◆スーパージョイントの組付け

スーパージョイント仕様の場合，まずジョイントサポートの取付けピンに，付属の防振ゴム，ブラケットを挿入し，そのブラケットをAフレームに左右各3個のボルトで締付けてください。

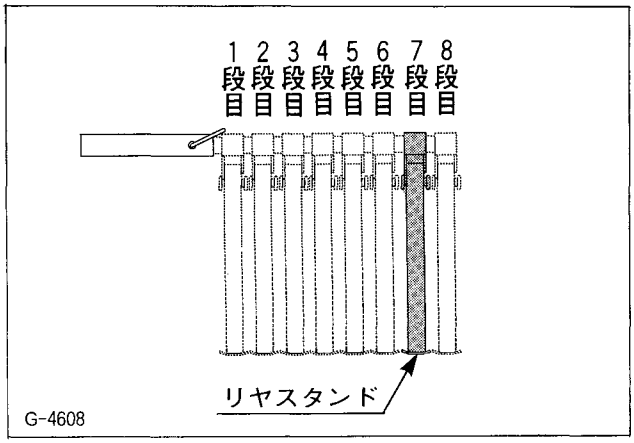


◆ロータリを着脱姿勢にしてください。

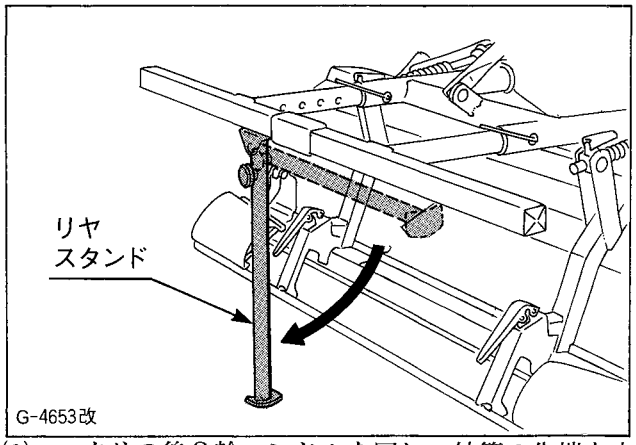
●スタンド仕様の場合

(1)リヤスタンドの前後方向の位置は7段目にセットしてください。

〔前後位置〕



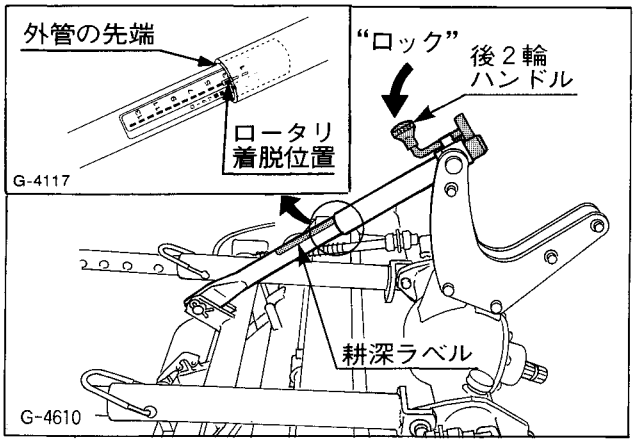
(2)リヤスタンドを下げ位置にセットしてください。



(3)ロータリの後２輪ハンドルを回し，外管の先端を内管に貼ってある，ラベルの**“ロータリ着脱位置”**の範囲に合せてください。

重　要

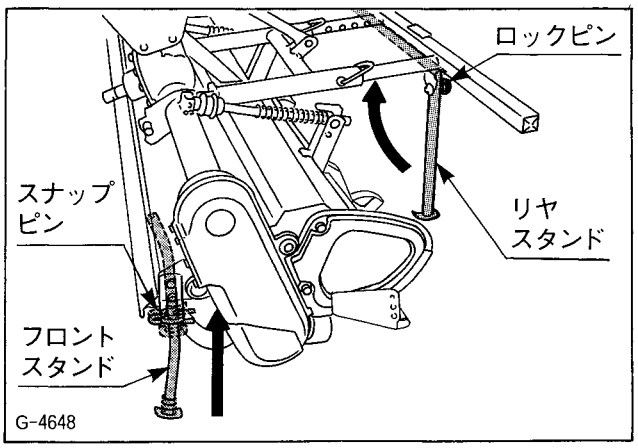
＊後２輪ハンドルは操作後，図の位置にセットしてください。



＊ロータリ着脱時は，フラップカバーを装着して行なってください。

＊フラップカバー無しで着脱する場合やロータリ単体で保管する場合は，フロントスタンドを下げ位置にセットしてください。

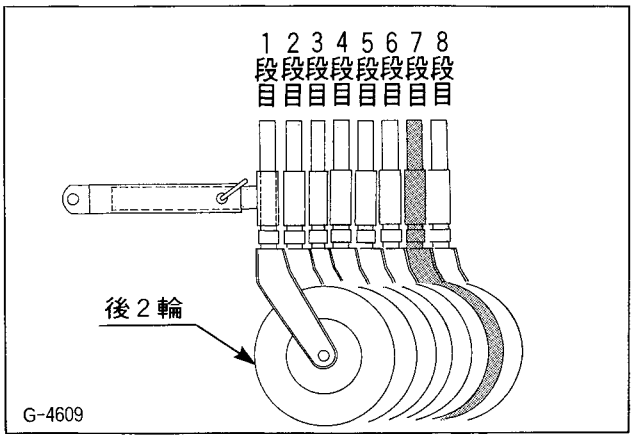
＊耕うん時は，リヤスタンドは折りたたみ，フロントスタンドは引き上げてスナップピンで固定してください。



●後２輪仕様の場合

(1)後２輪の前後方向の位置は７段目にセットしてください。

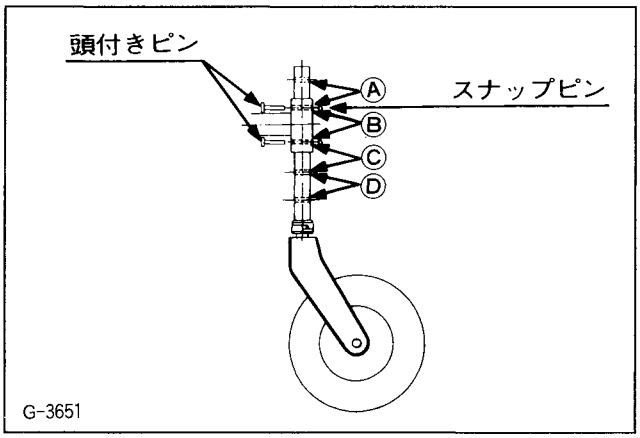
〔前後位置〕



〔上下位置〕

上下位置はⒷの位置にセットしてください。

(ロングカット爪がセットされている場合は，Ⓐの位置にセットしてください。)



(2)ロータリの後２輪ハンドルを回し，外管の先端を内管に貼ってあるラベルの，**“ロータリ着脱位置”**の範囲に合せてください。

■取付け方

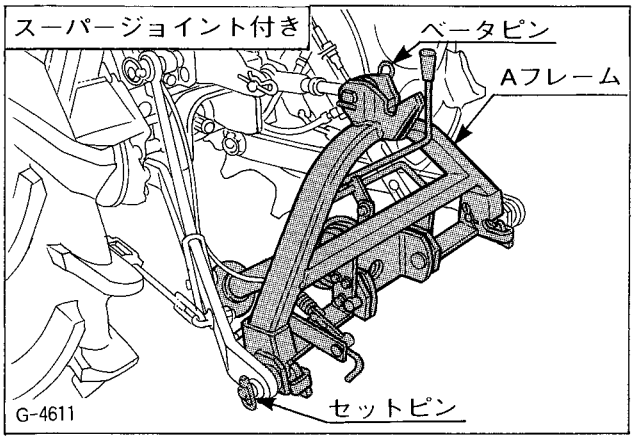
❶ロアーリンクとリフトロッド取付け位置を確認してください。もし，異なっている場合は**“取付け前の準備”**の項に従って取付けてください。

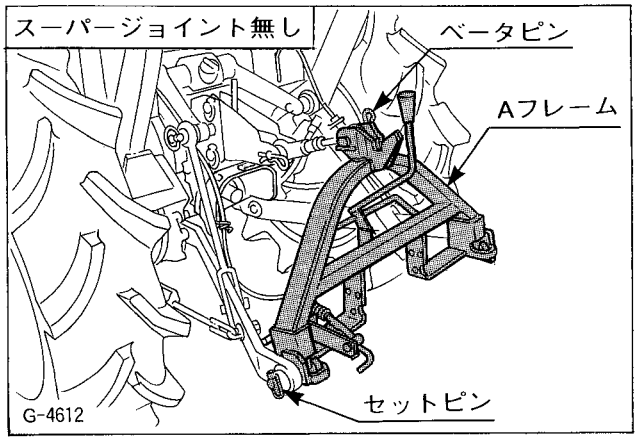
注 意

＊ロアーリンクとリフトロッドの取付け位置を間違うと，ユニバーサルジョイントが破損し傷害事故を引起すおそれがありますので，取付け位置を再確認してください。

❷ロアーリンクにAフレームを取付け，セットピンで抜け止めをしてください。

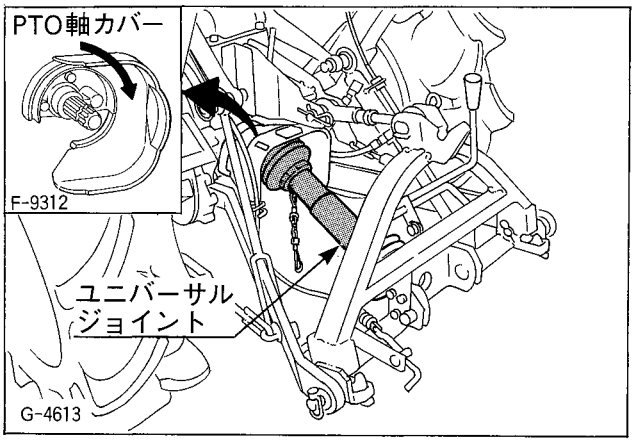
❸トップリンクの長さ**“L”**を調節し(**“取付け前の準備”**の**“ロータリの取付け方法と適応形式”**の項参照)，トップリンクサポートと，Aフレームの上部にそれぞれピンで取付け，ベータピンで抜け止めをしてください。





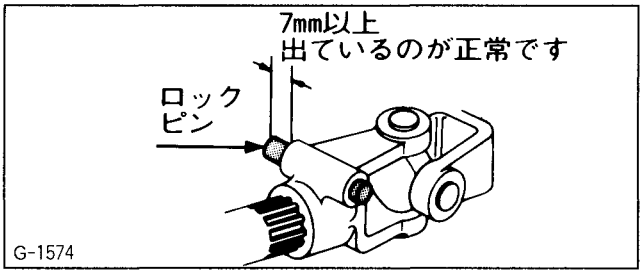
❹**【スーパージョイント付き】**

PTO軸カバーを90°回転させてから，ユニバーサルジョイントをトラクタのPTO軸に取付けてください。装着後は，PTO軸カバーを必ず元の位置に戻してください。



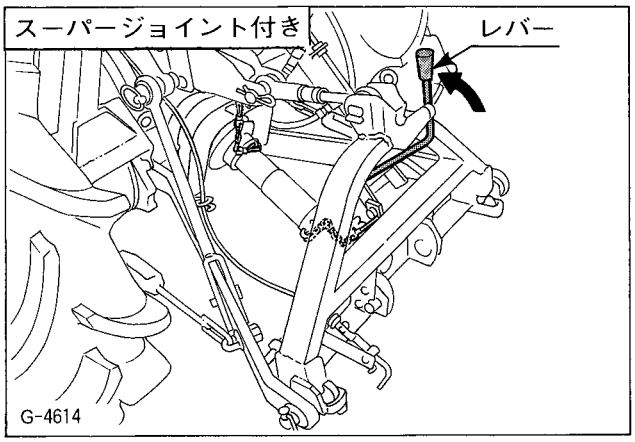
注 意

＊ユニバーサルジョイントを確実にセットしないと，抜けるおそれがあります。ロックピンの頭が7㎜以上出ているか確認してください。



❺**【スーパージョイント付き】**

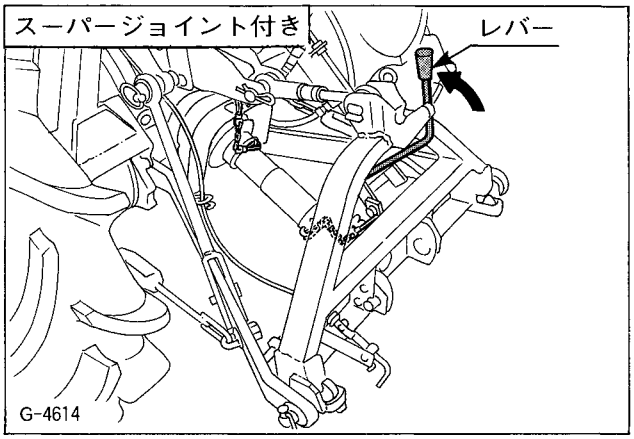
ユニバーサルジョイントの安全カバー回転止め鎖を，トラクタ側はトップリンクサポートに，ロータリ側はAフレームの中央部の穴に，取付けてください。

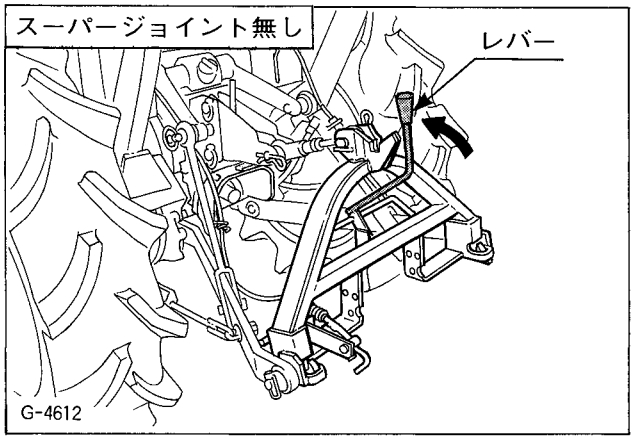


❻ロータリの着脱姿勢を確認してください。(**“トラクタへの装着”**の**“装着前の準備”**の項を参照)

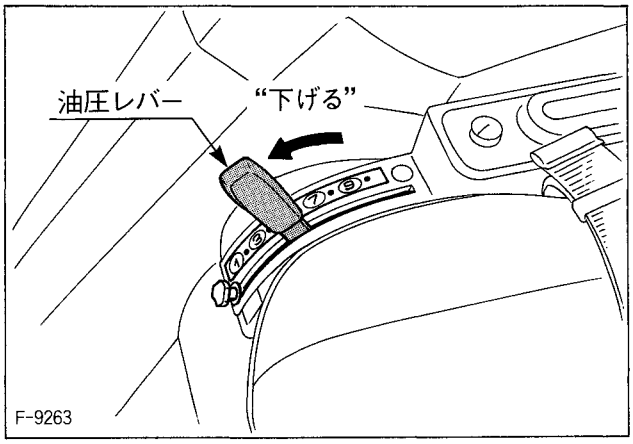
❼【オート仕様トラクタの場合】
ロータリカバー２を最下げの位置にセットしてください。(**“オートハンガの調整”**の項を参照)

❽レバー(Aフレーム)を下図の位置にセットしてください。



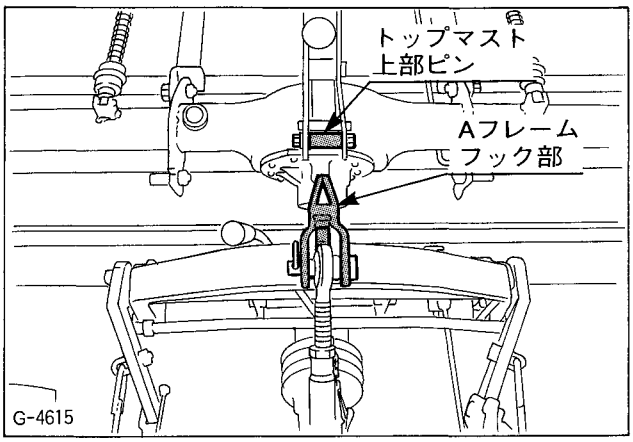


❾トラクタに乗車して，油圧レバーを**“下げ”**方向に操作し，Aフレームを降ろしてください。



❿Aフレームのフック部先端が，トップマスト上部ピンのやや下(１～２㎝)にくるように，油圧レバーを操作しながらゆっくりバックしてください。

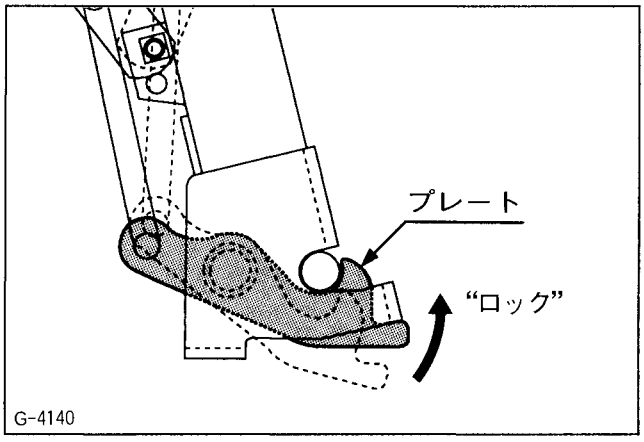
⓫油圧レバーをゆっくり**“上げ”**方向に操作し，Aフレームのフック部がトップマスト上部ピンに確実に引掛ったことを確認してから，ロータリを吊上げてください。



⓬Aフレームでロータリを吊上げると，ロータリは自動的にAフレームに**“ロック”**されます。

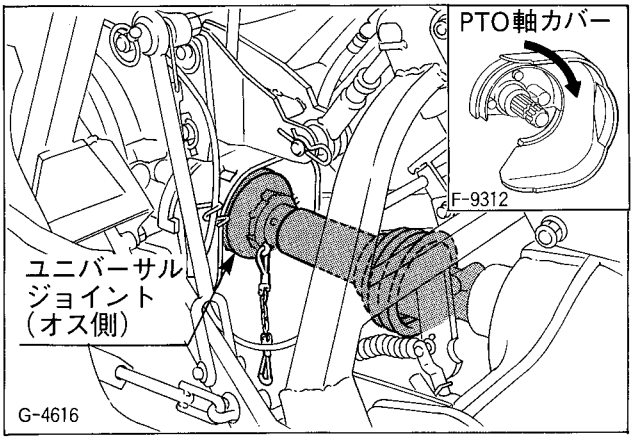
注　意

＊プレート(ロック)が確実にロック状態にあるか，確認してください。
ロックしていないと，ロータリが脱落するおそれがあります。



⓭【スーパージョイント無し】

エンジンを止め駐車ブレーキをかけてから，ユニバーサルジョイントを取付けてください。トラクタ側のPTO軸カバーを90°回転させてから，ユニバーサルジョイントの，オス側のロックピンを指で押えて，トラクタPTO軸の横溝を越すまで差込み，次にメス側をロータリの軸に差込んで，ロックピンでロックしてください。そしてPTO軸側を手前に引き，ロックピンを溝に確実に入れてください。

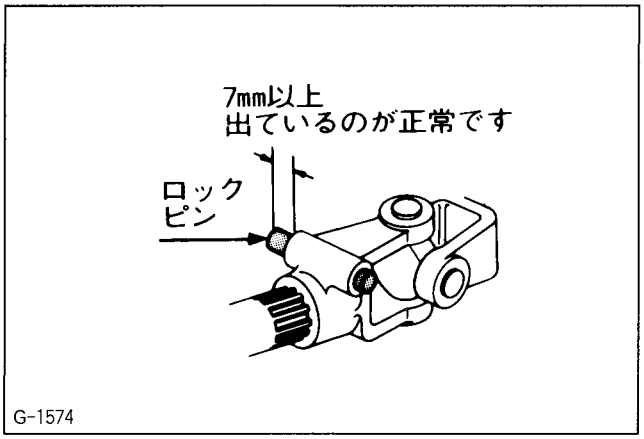


重　要

＊ユニバーサルジョイントの取付けは，必ずオス側をトラクタ側に，メス側をロータリ側に，取付けてください。

注　意

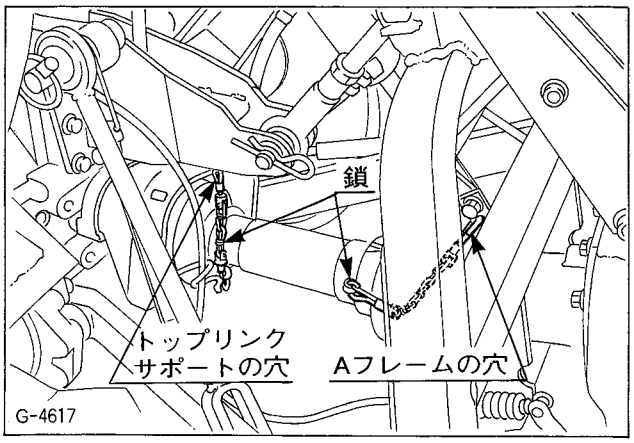
＊ユニバーサルジョイントを確実にセットしないと，抜けるおそれがあります。ロックピンの頭が７㎜以上出ているか確認してください。



⓮【スーパージョイント無し】

PTO軸カバーを元の位置へもどしてから，安全カバー回転止め鎖を取付けてください。

トラクタ側の鎖は，トップリンクサポートの下部取付け穴に，ロータリ側はAフレームの中央部の穴に，取付けてください。

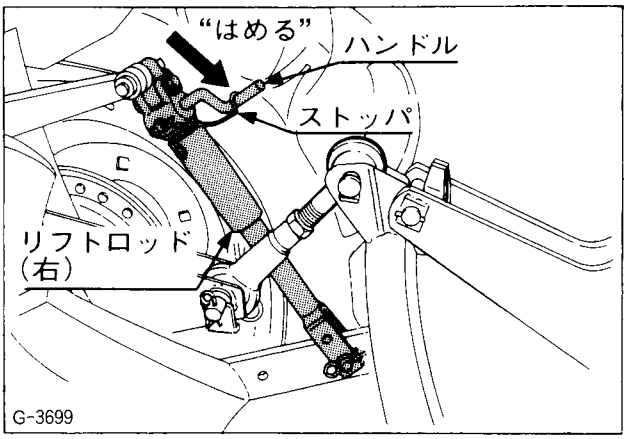


⓯リフトロッド(右)を調整してください。

【モンローマチック付は調整不要】

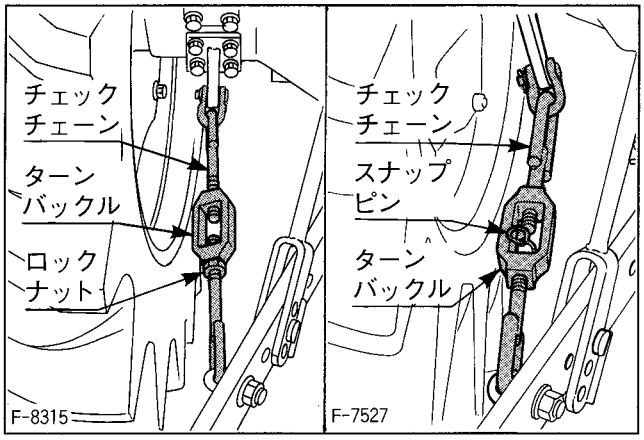
トラクタの油圧レバーでロータリを持上げて，ロータリの爪軸がトラクタの車軸と平行になるように，リフトロッド **“右”** の調整ハンドルを回して調整してください。(調整時はエンジンを止め，駐車ブレーキをかけてください。)

調整後，リフトロッド **“右”** が自由に回転しないように，調整ハンドルをストッパで固定してください。



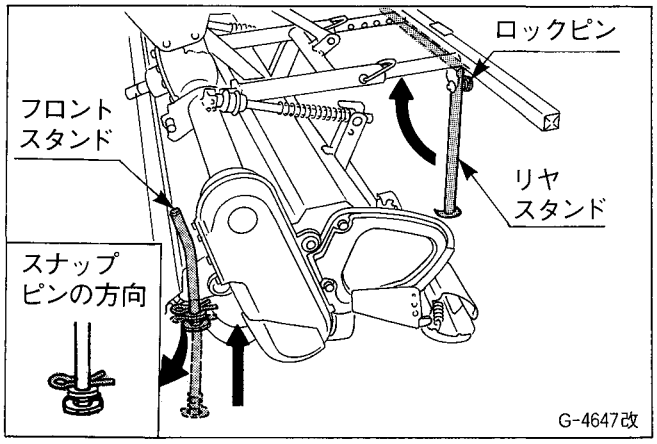
⓰チェックチェーンを張ってください。

エンジンを止め駐車ブレーキをかけてから，ユニバーサルジョイントが上から見て一直線になるように，チェックチェーンを左右均等に保ち(ロータリが横方向に２～３㎝動く程度)，ロックナット又はスナップピンでロックして，ロータリの横振れを制限してください。



⓱ロータリを持上げてエンジンを止め，駐車ブレーキをかけてからPTO変速レバーを**“中立”**にして，ユニバーサルジョイントが手で軽く回るかを，確認してください。

⓲フロントスタンドとリヤスタンドを格納してください。(リヤスタンドは内側へ格納してください。)
このとき，フロントスタンドのスナップピンの差込み方向に注意してください。
※後２輪仕様にはありません。



ロータリの取外し方

注　意

傷害事故の防止のため，ロータリ取外し時は次のことを守ってください。

＊PTOを中立にし，平たんな場所で行なう。

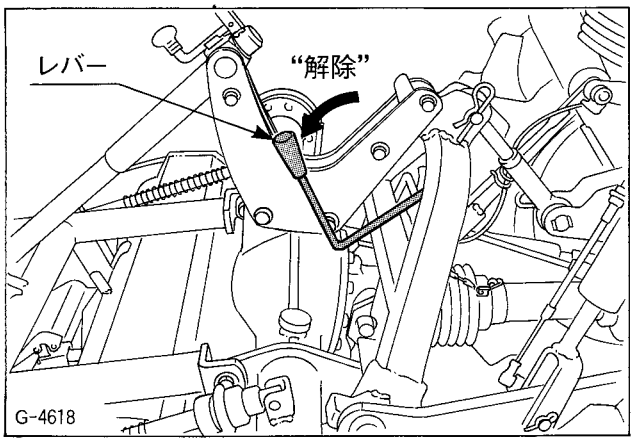
＊ロータリの着脱時は，必ず後２輪又はスタンドおよびフラップカバーを取付ける。

＊ロータリに寄りかかったり，乗ったりしない。

❶**【スーパージョイント無し】**
エンジンを止め駐車ブレーキをかけてから，ユニバーサルジョイントを取外してください。

❷**【オート仕様トラクタ】**
ロータリカバー２を最下げの位置にセットしてください。(**“オートハンガの調整”**の項を参照)

❸レバー(Aフレーム)を解除の位置にしてください。



❹ロータリを下げ，ロータリとAフレームを分離します。他は取付け順序の逆に行なってください。

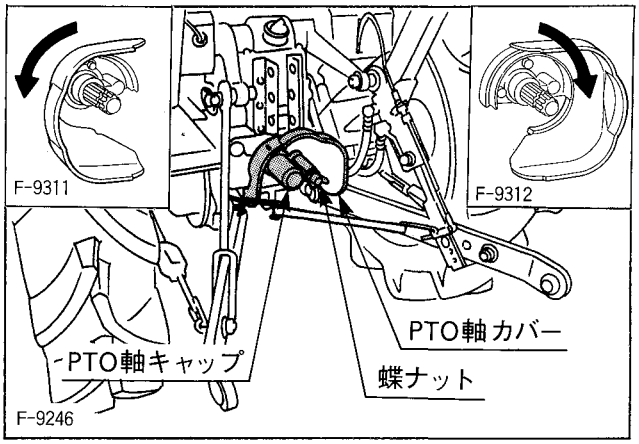
補　足

＊長期間保管するときや洗車後は，錆付き防止のため必ず一度ロータリを取外し，ユニバーサルジョイント側ジョイントスプライン部とロータリ側入力軸に，グリースを塗布してください。

注　意

＊Aフレームからロータリを外した状態で，PTO軸を回転させないでください。

＊PTO軸を使わない場合は，PTO軸キャップを取付けてください。



標準ロータリの上手な使い方

警　告

＊ロータリのユニバーサルジョイントと耕うん爪に接触すると，巻込まれなどの死傷事故のおそれがあります。回転中は近づかないでください。

＊必ず座席に座って，ロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。

＊ロータリの上に人を乗せたり，運転者以外の人をトラクタに乗せたりしないでください。
転落，巻込まれなど，重大事故の原因になります。

注　意

＊ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。
傷害事故を引起こすおそれがあります。

適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合せて，車速とPTO変速を決めてください。次表は，作業のめやすとして参照してください。

〔標準トラクタ〕

<table>
<tr><td colspan="5">変速レバー位置と作業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クリープ変速</td><td rowspan="2">副変速</td><td rowspan="2">主変速</td><td colspan="3">PTO変速</td></tr>
<tr><td>1段</td><td>2段</td><td>3段</td></tr>
<tr><td rowspan="4">L</td><td>L</td><td>4</td><td colspan="3">超細土耕うん</td></tr>
<tr><td>H</td><td>5
6</td><td colspan="2">強粘土
(荒耕し耕うん
畝立て)</td><td></td></tr>
<tr><td>H</td><td>7
8</td><td rowspan="2">水田・畑作
(荒耕し
畝立て)</td><td rowspan="2">水田・畑作
(細土耕うん
畝立て)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H</td><td>L</td><td>1
2</td></tr>
<tr><td>L</td><td>3
4</td><td colspan="3">代かき</td></tr>
</table>

〔Uシフト仕様トラクタ〕

<table>
<tr><td colspan="4">変速レバー位置と作業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クリープ変速</td><td rowspan="2">主変速</td><td colspan="3">PTO変速</td></tr>
<tr><td>1段</td><td>2段</td><td>3段</td></tr>
<tr><td>L</td><td>4</td><td colspan="3">超細土耕うん</td></tr>
<tr><td rowspan="2">L</td><td rowspan="2">5
6
7
8</td><td colspan="2">強粘土
(荒耕し耕うん
畝立て)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">水田・畑作
(荒耕し
畝立て)</td><td rowspan="2">水田・畑作
(細土耕うん
畝立て)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">H</td><td rowspan="2">1
2
3
4</td></tr>
<tr><td colspan="3">代かき</td></tr>
</table>

重　要

＊ウルトラロータリ（Hタイプ）では，PTO３段での作業を行なわないでください。
機械の損傷につながるおそれがあります。

補　足

＊ウルトラロータリ（Hタイプ）はほ場条件により，適応作業速度表に示す車速段数より１段早い車速レンジでの作業が可能です。

なた爪の取付け方

注　意

傷害事故の防止のため，爪の交換及び増締めをする場合，次のことを守ってください。

＊トラクタを平たんな広い場所に置く。

＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。

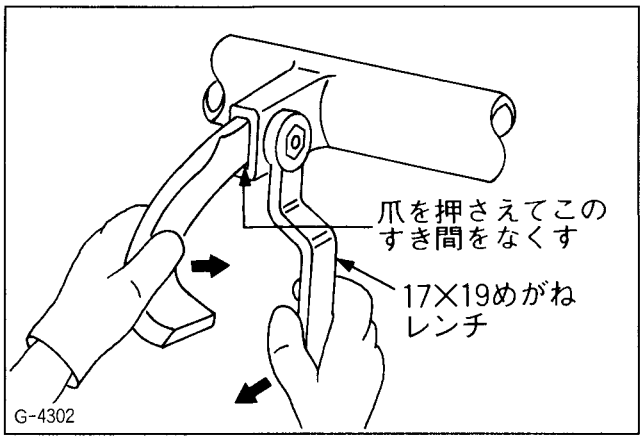
＊ロータリの落下防止のため，落下調整グリップを右いっぱい回して締込む。

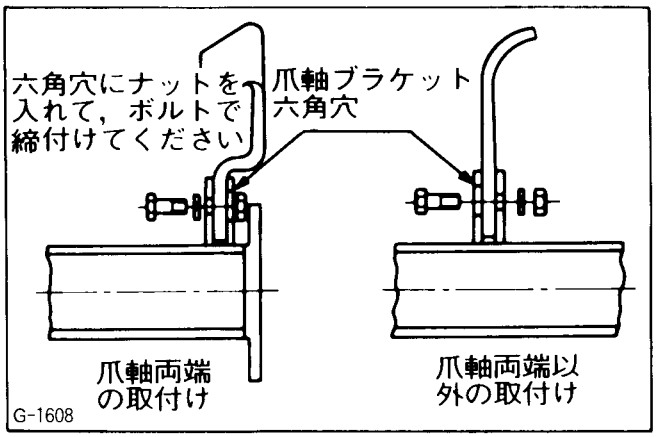
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

＊ボルト・ナットを締付ける場合は，めがねレンチが確実に入ったか確認する。

なた爪の着脱はオートハンガを利用して，ロータリカバー２をロックすると便利です。(**“オートハンガの調整”**の項を参照)

■一般タイプ





補　足

＊爪軸両端に取付ける増幅爪（左右各１本，Hタイプは左右各２本）は，大きい爪ブラケットに取付けてください。

＊めがねレンチで力いっぱい締付けてください。
〔締付けトルク78.4～88.2N·m(800～900kgf·cm)〕

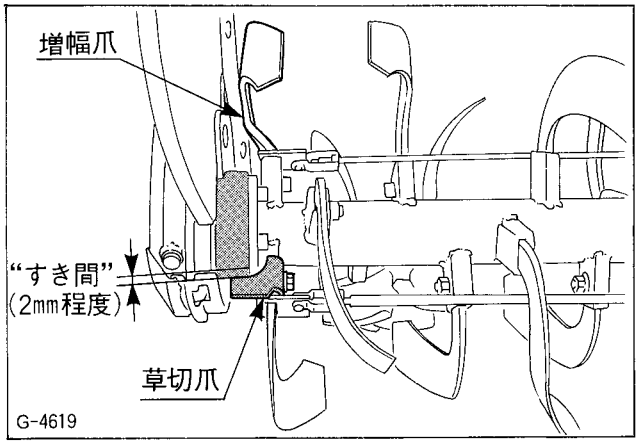
＊爪を抜いて作業すると爪のバランスが狂い，振動や騒音が出ることがありますので，ご注意ください。

＊ナットを締付けるときは，トラクタ側のPTO変速レバーを入れることにより，爪軸をロックすることができ，力を入れてナットを締付けることができます。

＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。

■草切爪(H, Eタイプを除く)

両端の50A号爪には，付属の草切爪(R，L)をそれぞれ銀色の爪取付けボルトで共締めしてください。爪軸正転方向に対し，爪ブラケットの前に草切爪がくるようにチェーンケース側，サイドフレーム側に各1個取付けてください。



重　要

＊草切爪とケースのすき間が大きすぎると草切爪の効果は少なくなります。

■草巻付き防止ワイヤ (H, Eタイプを除く)

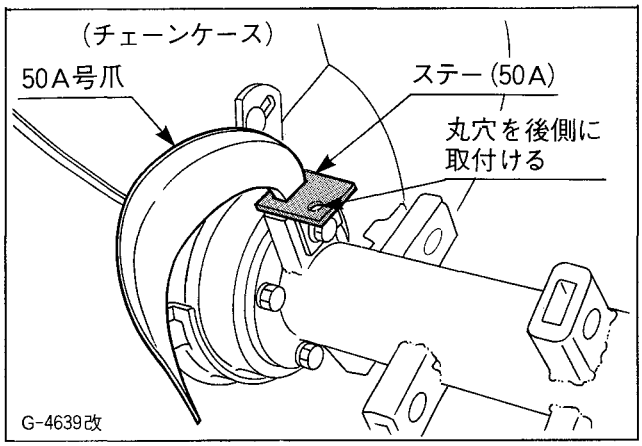
重　要

＊石の多いほ場では，草巻付き防止ワイヤの使用を控えてください。
＊ワイヤが損傷した場合は，すみやかにワイヤを新品に交換してください。同時に割ピンも新品に交換してください。但し被覆している樹脂が摩耗もしくは切損しても使用は可能です。
＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。
＊普通爪を使用する場合は，ステーが脱落するので草巻付き防止ワイヤは絶対に使用しないでください。
＊カマなどでワイヤを傷つけないでください。

◆草巻付き防止ワイヤの取付け方

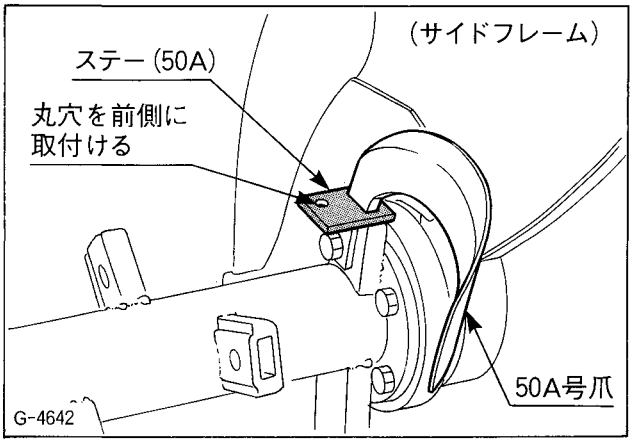
❶爪軸両端の爪(合計4本)を外してください。
❷50A号爪にステー(50A)を，50C号爪にステー(50C)を差込みます。爪を差込む四角穴が小さい方がステー(50A)です。

【チェーンケース側】



＊ステー(50C)もステー(50A)と同じ方向に取付けます。

【サイドフレーム側】



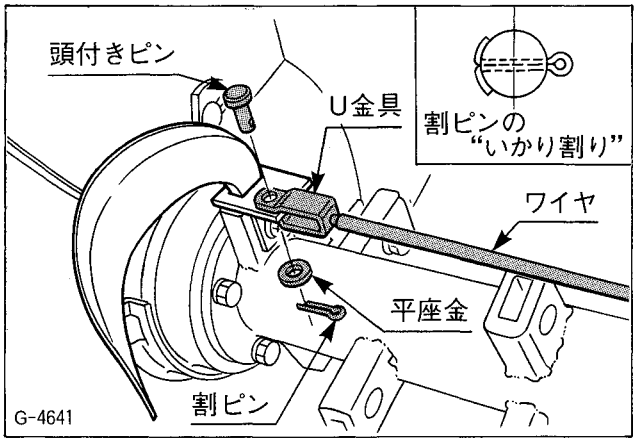
＊ステー(50C)もステー(50A)と同じ方向に取付けます。

重　要

＊ステー(50A)及びステー(50C)の取付け方向を間違うと，ワイヤが取付かなかったり，ワイヤを損傷することがあります。

❸ステーを差込んだ爪をブラケットに取付けます。50A号爪には草切爪を取付けてください。(**“なた爪の取付け方”**の**“草切爪”**の項を参照)

❹チェーンケース側のステーに，ワイヤのネジのない側を取付けます。ワイヤのU金具の穴とステーの穴を合わし，上側から頭付きピンを差込み，下側から平座金を入れ，頭付きピンの穴に割ピンを挿入します。割ピンはいかり割りにしてください。



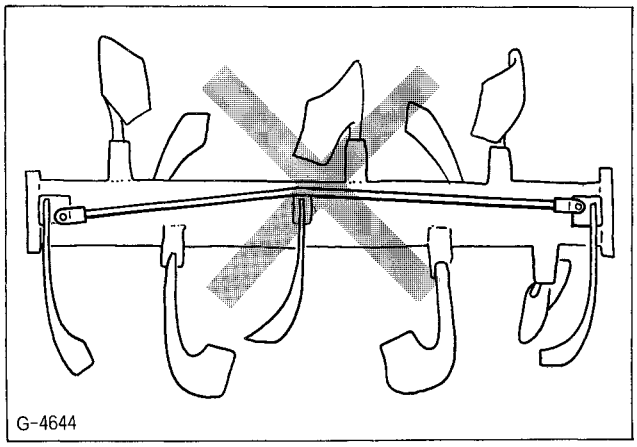
重 要

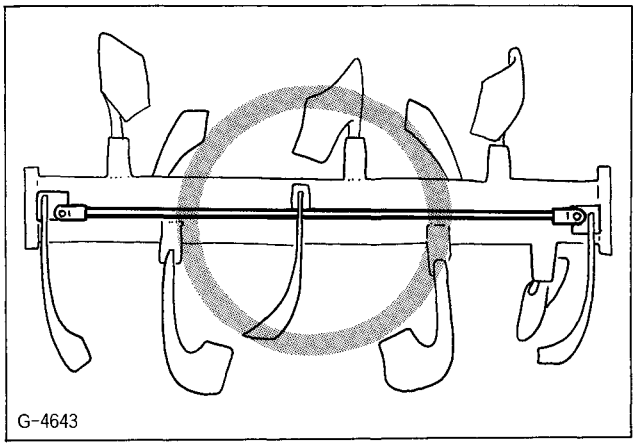
＊頭付きピンを下側から取付けたり，割ピンをいかり割りにしないと，耕うん作業中に割ピンが脱落しワイヤを損傷することがあります。

❺ワイヤが一直線になるようにして，サイドフレーム側のステーに，ワイヤのネジのある側をチェーンケース側と同様に取付けます。

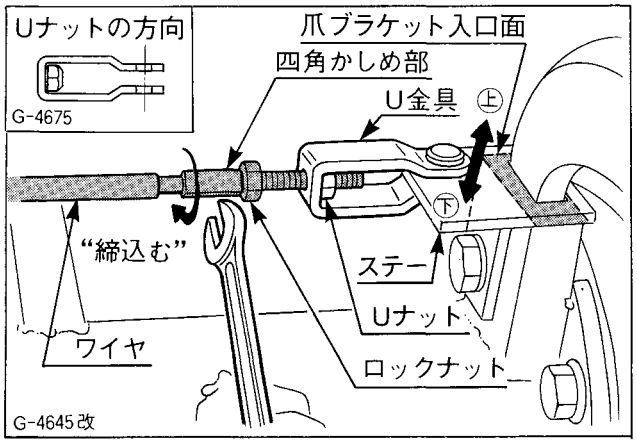
重 要

＊ワイヤが爪やブラケットに干渉していないか確認してください。正しい位置に取付けられている場合，ワイヤは爪軸両端部に取付けたステーの丸穴を結び一直線になり，爪軸に平行になります。もし，下図のように爪やブラケットに干渉したまま取付けますと，ワイヤを損傷するおそれがあります。





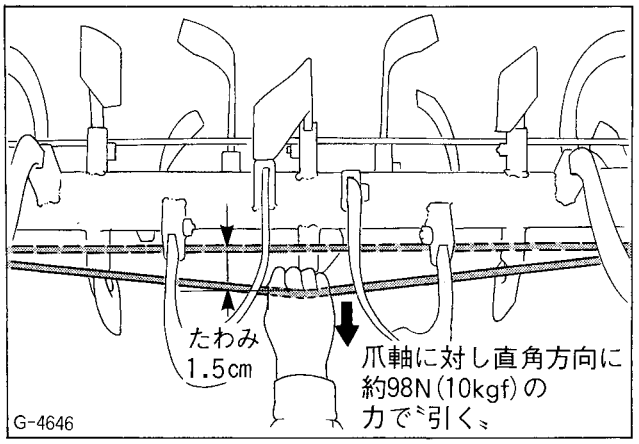
❻4つのステーをつぎの位置にします。
50A号爪側→爪先端方向いっぱいにずらせた位置
（矢印㊤方向）
50C号爪側→爪ブラケット入口面に接触する位置
（矢印㊦方向）
ロックナットを四角かしめ部付近までゆるめ，ワイヤのネジの四角かしめ部を付属のスパナ(M8)で締込み，ロックナットで固定します。



重　要

＊ワイヤの調整はロックナットをゆるめてから，必ず付属のスパナ(M８)で行なってください。ロックした状態の増し締めや他の工具を使用しますと，破損するおそれがあります。
＊ワイヤの調整は必ず❼の手順でたわみ量を確認しながら行なってください。そのとき，締付けトルクが1470 N·cm (150 kgf·cm (参考値))をこえないようにしてください。

❼爪軸の中央付近で，ワイヤを爪軸に対して直角方向に約98N(10kgf)の力で引いたとき，ワイヤが元の位置から1.5cmたわむ程度に調整してください。

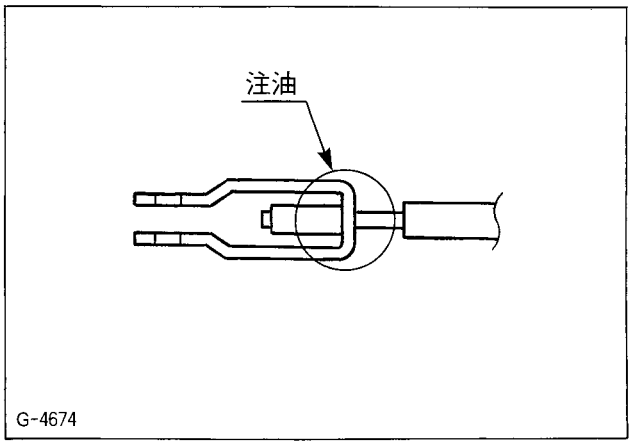


注　意

傷害事故防止のため，草巻付き防止ワイヤの調整時は次のことを守ってください。
＊ワイヤを引くときはゆっくり引き，ワイヤに体重をかけて引かないでください。

重　要

＊耕うん前にワイヤがゆるんでいないか確認してください。ゆるんでいる場合は，❻❼の手順でワイヤを調整してください。ゆるんだまま使用すると，草巻付き防止ワイヤの効果が少なくなり，ワイヤを損傷するおそれがあります。ワイヤを調整するときは，ネジ部に付着した土などを洗い流し，ネジ部に注油してください。
＊ロータリ使用後，特に長時間使用しないときは，図示箇所を洗浄後，注油してください。



補　足

＊ワイヤを調整するとき，ある程度ワイヤが張ってくると，スパナで締めてもワイヤのネジがゆるむことがあります。そのときは，ロックナットでロックしながら調整してください。

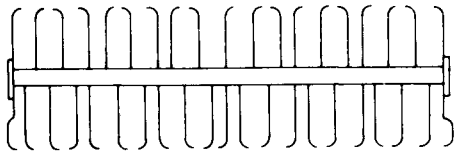
◆草巻付き防止ワイヤの取外し方
取付け方の逆の手順で行なってください。

1 均平耕法 (耕起・細土・代かき・整地作業)

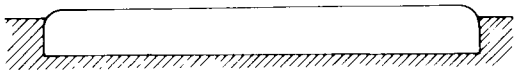
爪ブラケット六角穴の反対側に爪の曲がりがくるよう，参考例に従って取付けてください。
ただし，爪軸両端の４個の爪ブラケット(左右各２個)には六角穴にナットを入れて，ボルトで締付けてください。

〔参考〕

◆RM180G



G-2942



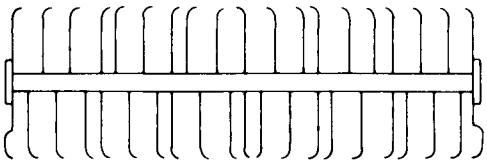
G-1914

2 １つ盛り耕法 (乾土効果を必要とする水田の耕起・細土作業)

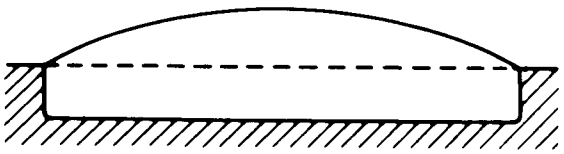
爪軸中央を基準とし，爪はすべて内向きになるように取付けてください。
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

〔参考〕

◆RM180G



G-2946



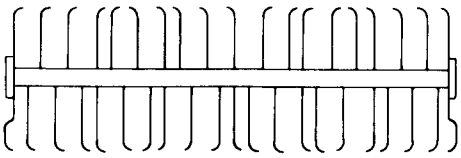
G-1619

3 ２つ盛り耕法 (乾土効果を必要とする水田の耕起・細土及び1連畝立て作業)

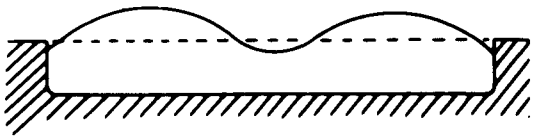
爪軸中央と両端の間でそれぞれ爪が内向きになるよう参考例に従って取付けてください。
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

〔参考〕

◆RM180G



G-2949



G-1623

補 足

＊ウルトラロータリ（Hタイプ）は１つ盛耕，２つ盛耕はできませんので注意してください。
（残耕ができます。）

マッドレスロータリの取扱い(SC仕様)

注　意

傷害事故の防止のため，ゴムカバーの装着確認をする場合，次のことを守ってください。

＊トラクタを平たんな広い場所に置く。

＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。

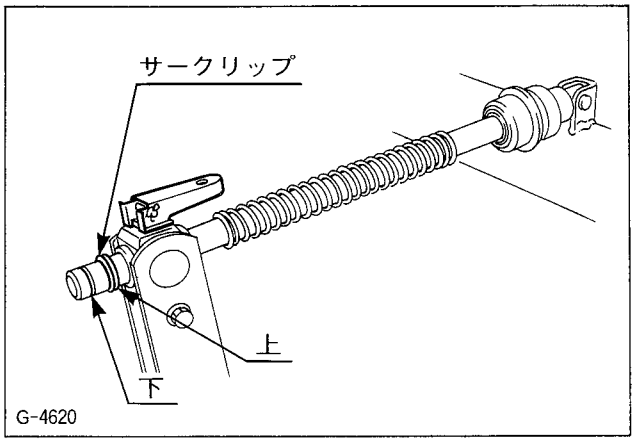
＊ロータリの落下防止のため，落下調整グリップを右いっぱい回して締込む。

＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

作業前に次の項目を点検してください。

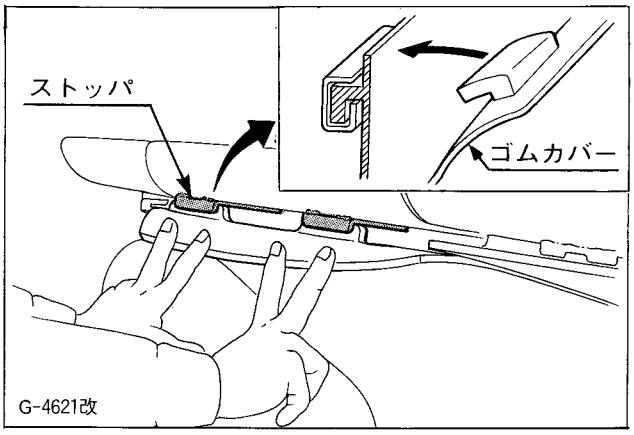
(1)ロッドのサークリップ位置の確認。

ロッドのサークリップが上の位置にあるか確認します。

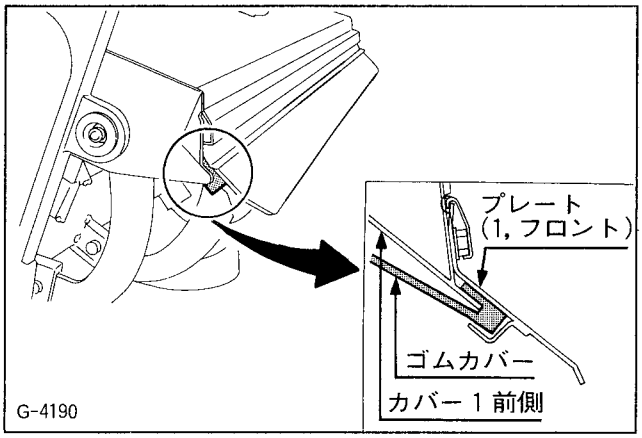


(2)ゴムカバー装着確認。

●ストッパにしっかりはまっているか確認します。



●カバー１前側がプレート(１，フロント)にしっかりはまっているか確認します。



補　足

＊角張った石の多いほ場では，マッドレスロータリの使用を控えてください。

＊ゴムカバーに大きな破れやキズが発生した場合は，すみやかに補修してから使用してください。

補修剤

品　　名	品　　番
アースパッチアッシ	07909-4949-9

＊普通爪，ロングカット爪は使用しないでください。

＊ゴムカバーに付着している土を取除く場合，鋭利な物(ナイフ，ドライバなど)の使用はさけてください。

＊ゴムカバー内部に泥が滞留しゴムカバーと耕うん爪が接触する場合は，カバー１前側のプレート(１，フロント)を外して，ゴムカバー内部の泥を取除いてください。

＊ロータリを地表に降ろしたままバックしないでください。耕うん爪でゴムカバーを損傷させるおそれがあります。

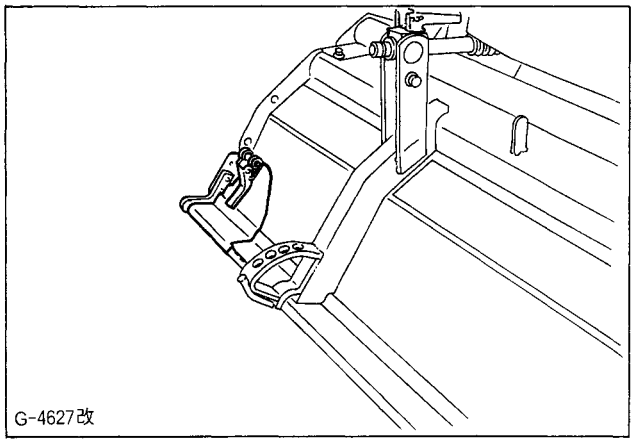
ロータリの調整

ロータリカバーの調整

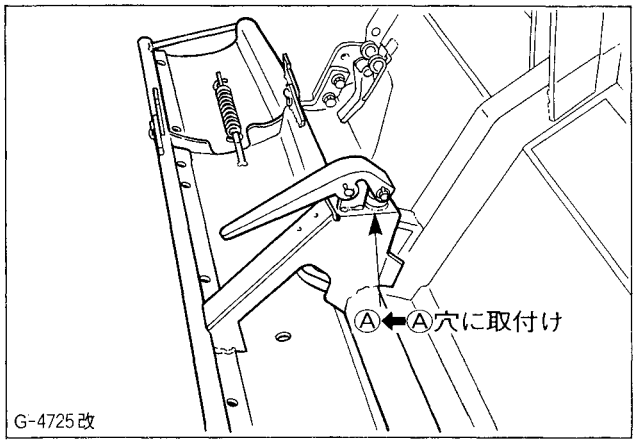
■フラップカバーの使用法

フラップカバーは，４段階の調整と着脱が可能です。
作業に合わせて使い分けてください。
特にオート作業時，進行方向に凹凸ができる場合は，
Ⓐ穴(一番上げた位置)で使用してください。

❶ 荒耕し又は超深耕し作業 を行なう場合は，フラップカバーを取外してください。

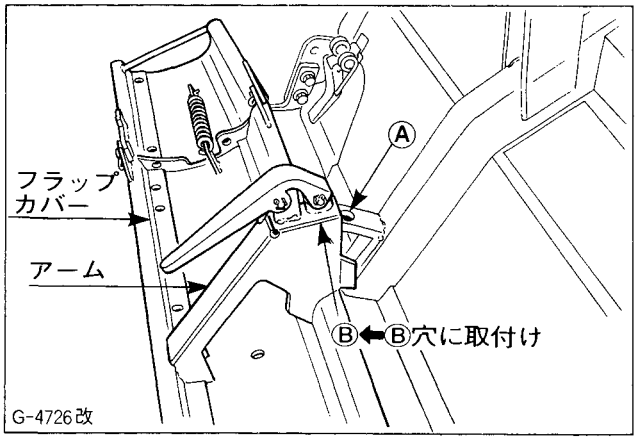

G-4627改

❷ 細土耕うんや深耕し作業 は，Ⓐ穴位置で行ないましょう。



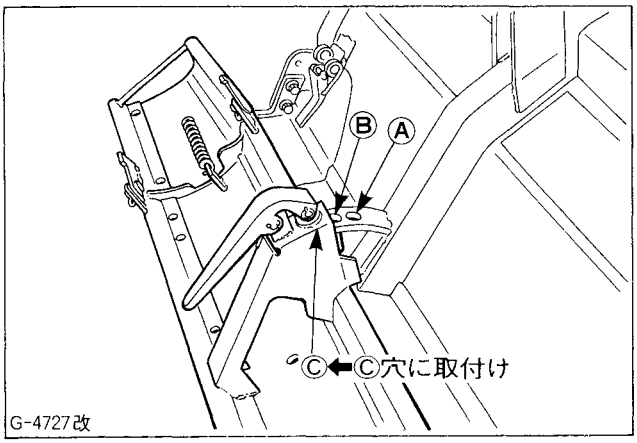
G-4725改

❸ 一般耕うん作業 は，Ⓑ穴位置で行ないましょう。



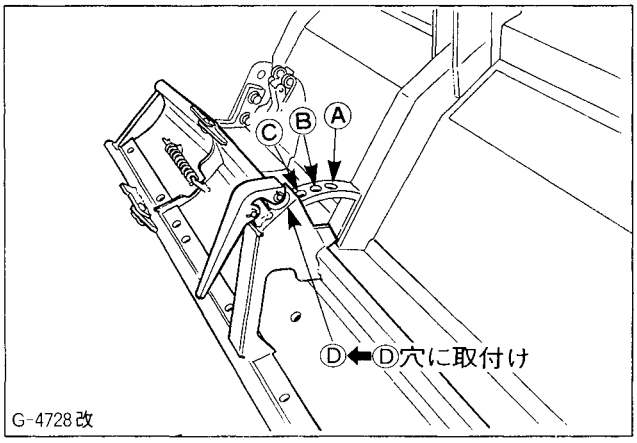
G-4726改

❹ 浅耕し又は一般代かき作業 は，Ⓒ穴位置で行ないましょう。



G-4727改

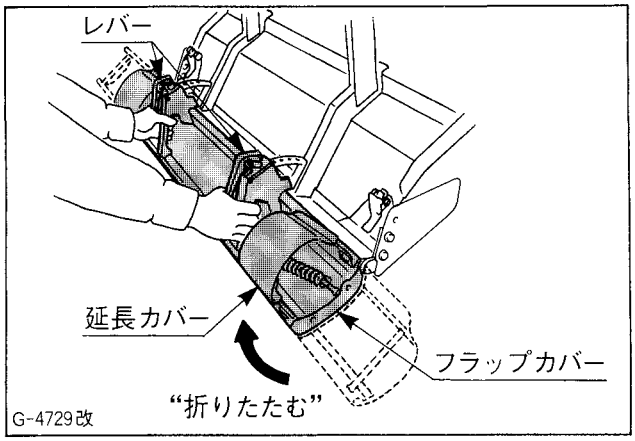
❺ 半湿田での代かき作業 は，一番下げたⒹ穴位置で行ないましょう。



G-4728改

■フラップカバーの取外し方

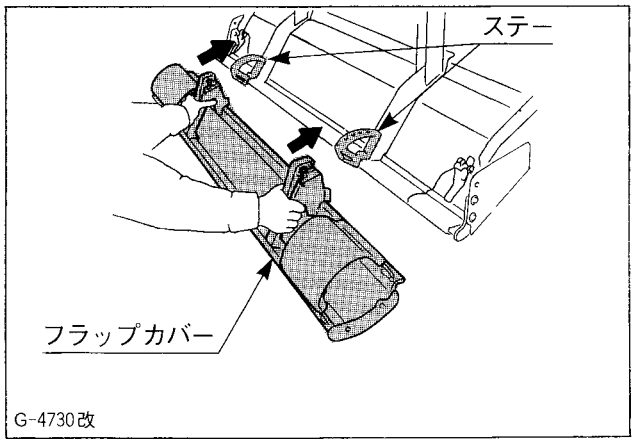
フラップカバーのアーム部とレバーを握ったまま，ロータリカバー２から取外してください。



(フラップカバーの延長はEタイプにはありません。)

■フラップカバーの取付け方

❶フラップカバーのアーム部とレバーを握ったまま，フラップカバー(ホンタイ)をロータリカバー２(ホンタイ)とステー２の間に差込んでください。

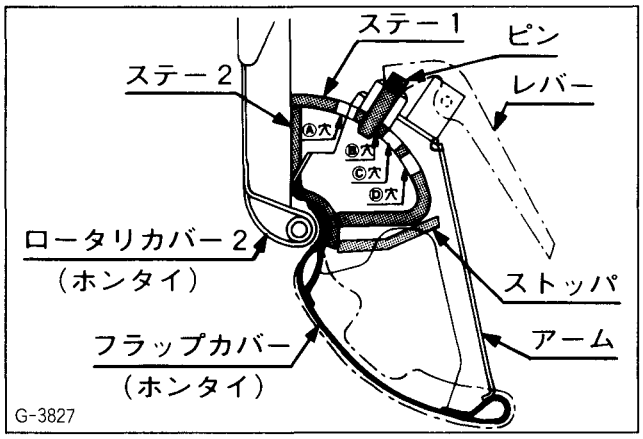


❷上記の状態で握ったレバーのピンが，ステー１の４つの穴(A，B，C，D)のいずれかに確実に挿入される位置で，レバーをはなしてください。

重　要

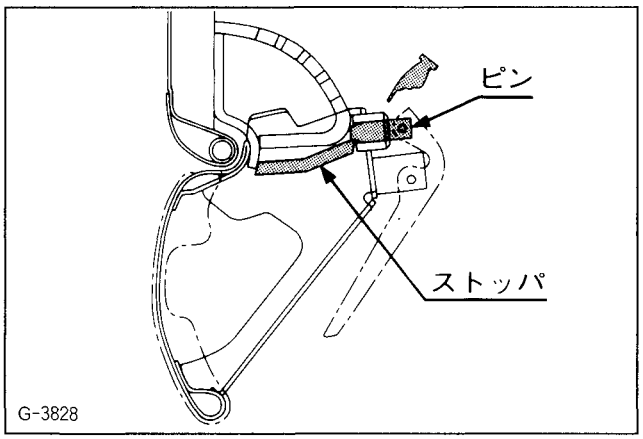
＊ピンが確実に挿入されていることを確認してください。

【正しい装着状態】



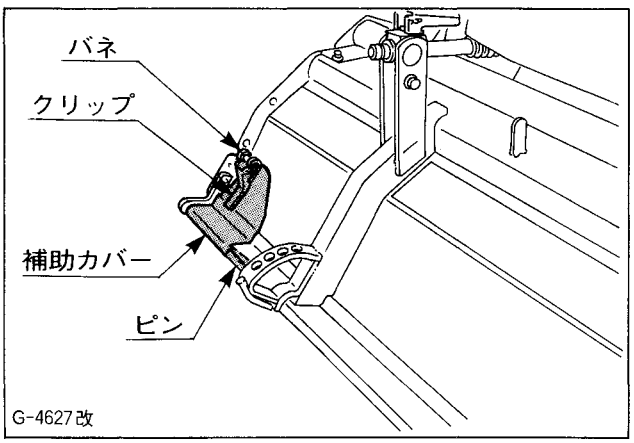
【誤まった装着状態】

ピンがステー１の４つの穴のいずれにも挿入されずに，ストッパの上に乗っていると，フラップカバーが落下することがあります。ピンが確実に穴に挿入されるように正しく装着してください。



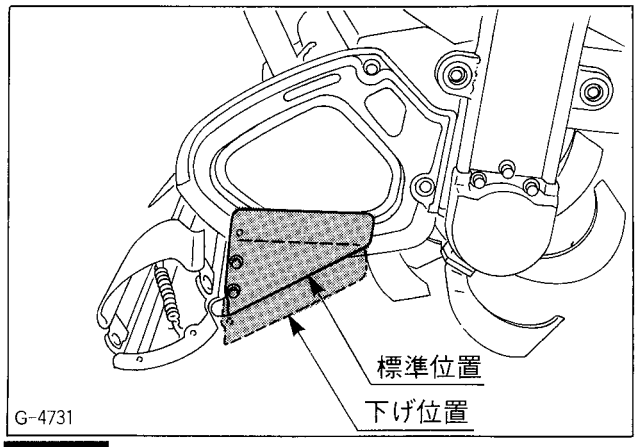
■補助カバーR・Lの取外し方

後２輪併用で枕地を少なくする，又は片培土作業をするため補助カバーを取外す場合は，クリップを引上げ，補助カバーを取付けているバネをロータリカバー２のかけ金具から取外してください。



■防土カバーの上手な使い方(Eタイプ以外)

防土カバーは，２段階の調整で着脱が可能です。作業に合わせて使い分けてください。
特に浅耕し作業や，代かき作業を行なう場合は，防土カバーを**下げ位置**にすると効果的です。また，不要の場合は取外して使用してください。



重　要

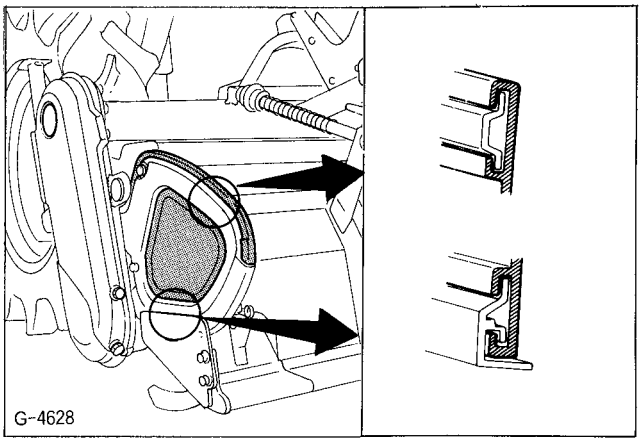
＊防土カバーがサイドカバーに接触していないか確認してください。

■サイドカバーの上手な使い方

注　意

＊サイドカバーを外した状態でロータリを使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

(1)作業前には，サイドゴムカバーがしっかりと装着されているか確認してください。
(2)土地条件によっては，サイドゴムカバー内面に土が付着し外側にふくれることがあります。その場合は，すみやかに土を除去してください。
(3)サイドゴムカバーに付着している土を取除く場合，鋭利な物(ナイフ，ドライバなど)の使用はさけてください。



耕深の調整(後２輪仕様)

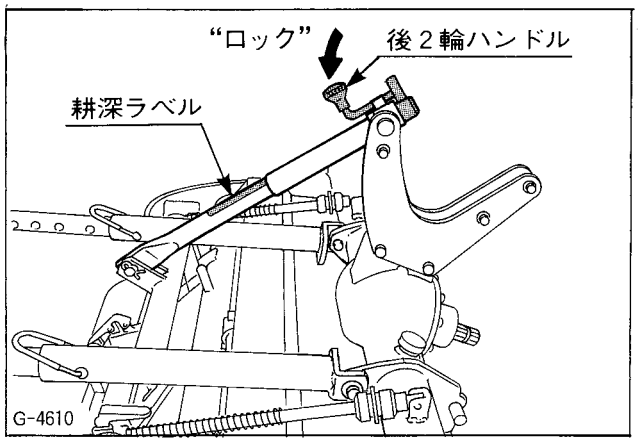
標準(スタンド仕様)タイプを購入された方は，オプションにて追加購入することができます。

品　　名	品　　番
後２輪アッシ(RM7G)	7E707-9940-1

注　意

＊トラクタを前進させながらの耕深調整はしないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

後２輪ハンドルを回すことにより，耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として，耕深ラベルの目盛りをご使用ください。



補　足

＊後２輪ハンドル操作後は，図の位置にセットしてください。

後２輪の調整(後２輪仕様)

注　意

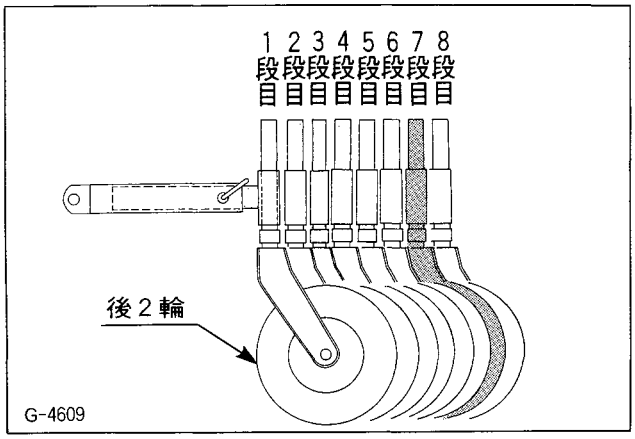
＊後２輪を使用しない場合は取外してください。
後２輪を上方に反転させての耕うん・移動は，傷害事故を引起すおそれがあります。

後２輪は前後方向に８段階，上下方向に４段階の調節ができますので，作業に合せて調整してください。

■後２輪ホルダの前後調整

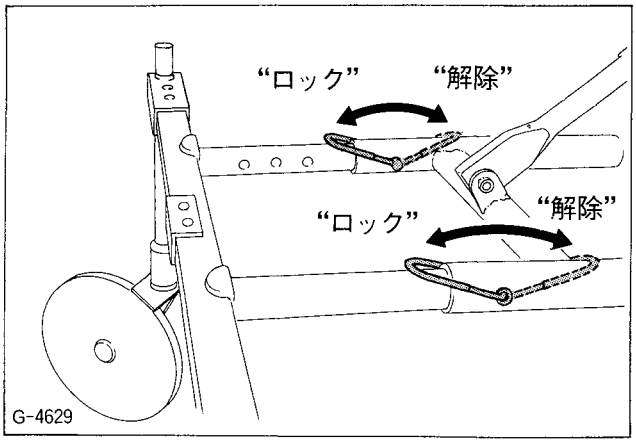
作業により次の位置を目安に調整してください。

後２輪無し	培土作業	標準カバー機	１段目
		SCカバー機	２･３段目
後２輪使用	一般耕うん作業(12cm以下)	フラップカバー無し補助カバー付	４段目
		フラップカバー付補助カバー付	５･６段目
	フラップカバー付，補助カバー付		７･８段目
	フラップカバー無し，補助カバー無し		１段目
	ロータリを着脱する場合		７段目



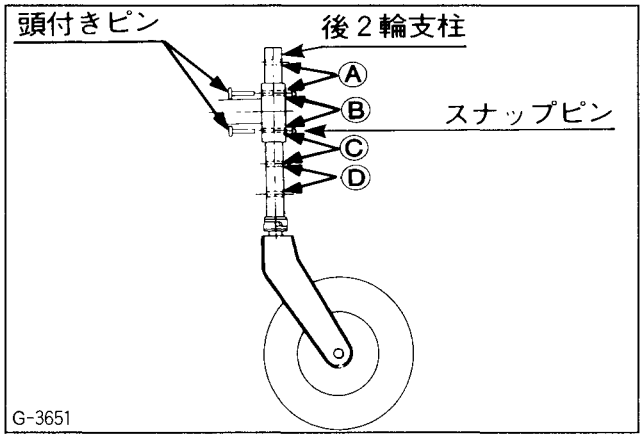
補　足

＊水田(湿田)で，トラクタの性能を十分発揮させるため，後2輪はロータリカバーに接触しない範囲で，接近させて使用してください。



■上下調整

(1)一般耕うんの場合。
　後２輪支柱をⒷの穴に，セットしてください。
(2)代かき・湿田耕うんの場合。
　後２輪支柱をⒶの穴に，セットしてください。
(3)必要に応じてⒸⒹの穴に，取付けできます。
(4)頭付きピンは必ず前方から挿入してください。カバーと接触して，スナップピンが抜けるおそれがあります。
(5)ロータリを着脱する場合は，Ⓑの穴に取付けてください。
　〔ロングカット爪(556号)を使用する場合は，Ⓐの位置にセットしてください。片培土機を使用するときは，Ⓓの位置にセットしてください。〕



スプリングロックの調整
【Eタイプ以外】

注 意

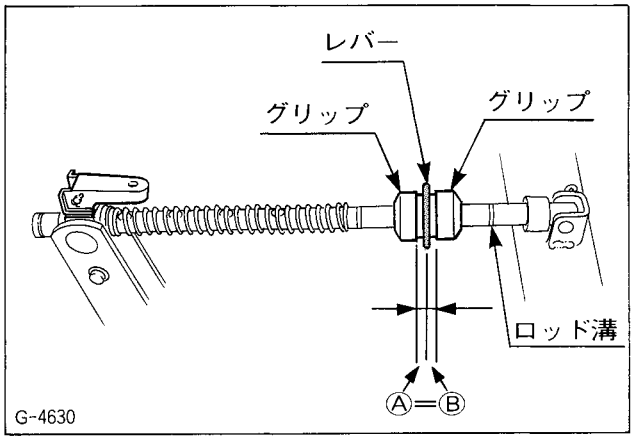
＊スプリングロックの操作は必ずロータリを地上に降ろし，エンジンを停止してから行なってください。

(1)スプリングロックの調節は，接地圧条件に合せて行なってください。(ロッド溝の上から１番目，２番目，３番目…と取付け位置を下方に下げるにつれて押付力は強くなります。)
(2)押付力を強くしますと，均平・整地に効果があります。

■スプリングロックの操作方法

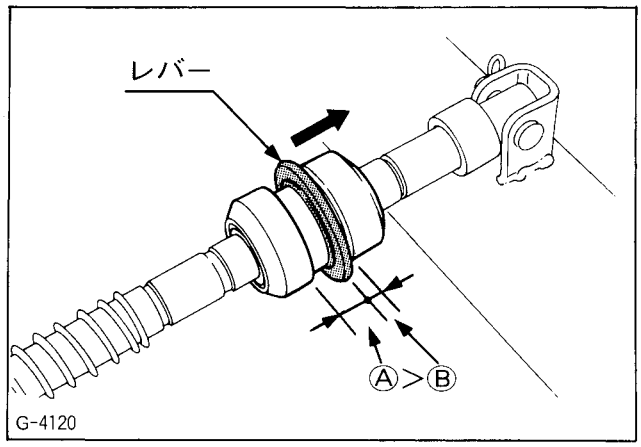
◆レバーが中立位置にある(ロッド溝にはまっている)場合

レバーを両手で操作方向に押してください。
グリップが押した方向に動きます。

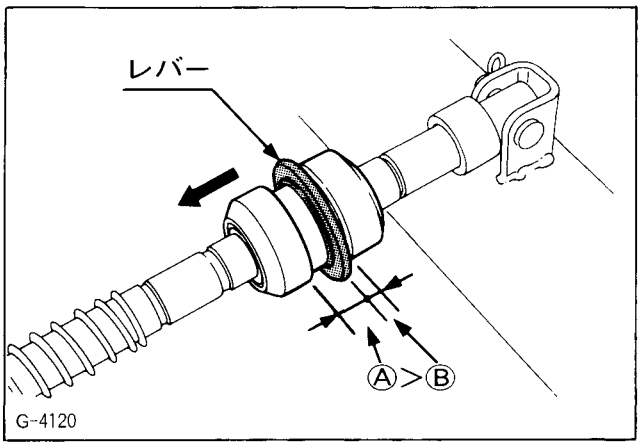


◆レバーが中立位置にない(ロッド溝にはまっていない)場合

●レバーが上側にセットされているとき
グリップを上げる場合は，レバーを両手で上に押上げればそのままグリップは動きます。



グリップを下げる場合は，レバーを両手で上に押上げてから，その状態でグリップを下方向に押せば動きます。



●レバーが下側にセットされているとき
レバーが上側にセットされているときと反対に操作してください。

注 意

＊スプリングが押付けられた状態でスプリングロックを操作するときは，必ず最後までグリップを握った状態で操作してください。途中で手をはなすと，グリップが上方へいきおいよく飛出し危険です。

補 足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，しゆう動部に注油してください。

オートハンガの調整

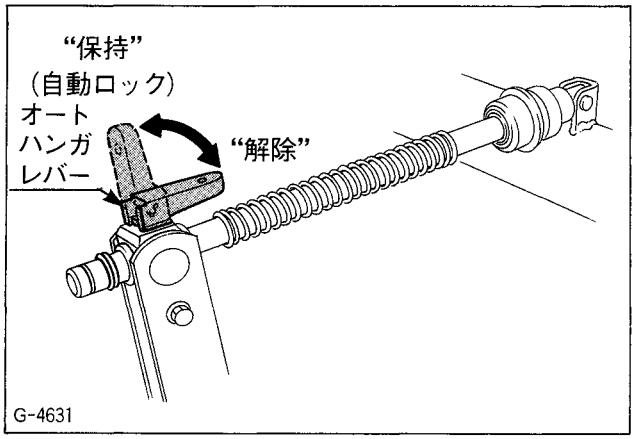
注 意

＊オートハンガの操作は，傷害事故を引起こすおそれがありますので，トラクタのキースイッチを“切”にしてから行なってください。

補 足

＊MA仕様トラクタの場合，オートハンガが保持位置にセットしてあると，ロータリが下降しないことがありますので注意してください。

耕うん爪の点検・交換などを行なう場合，オートハンガレバーを左右２カ所とも**“保持”**(自動ロック)の位置にし，ロータリカバー２を持上げると，自動的にロータリカバー２がロックされます。



重 要

＊オート作業時は，必ず**“解除”**の位置にしてください。耕深がとれない場合があります。

＊**“保持”**にしたときは，必ず左右のオートハンガのレバーが**“保持”**位置になっているか，またピンが確実に入っているか確認してください。

補 足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，レバー部とピン部に十分注油してください。

フローティング装置(別売オプション)

注 意

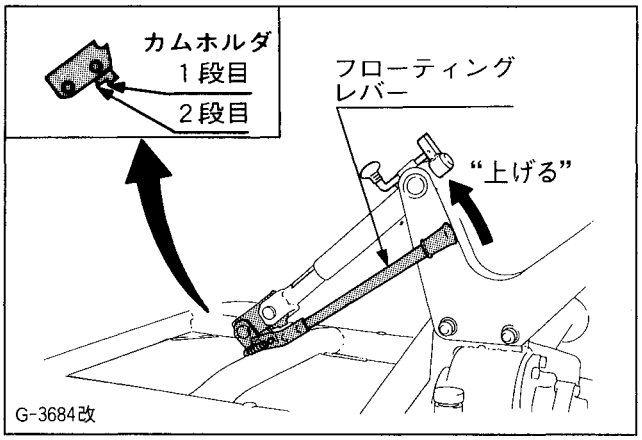
＊ロータリをトラクタから取外し，ロータリ単体保管する場合，絶対にフローティングレバーを操作しないでください。フローティングレバーを上方にあげると，急にロータリの姿勢が変化し，不安定な状態になります。

後２輪フローティング機構は，簡単な取扱いであぜぎわまで耕うんできる機構です。

次の取扱い要領に従って，正しく使用してください。

❶油圧レバーを操作してロータリを持上げてください。

❷フローティングレバーを上方に押し上げ，レバーがカムホルダに引掛かるようにしてください。



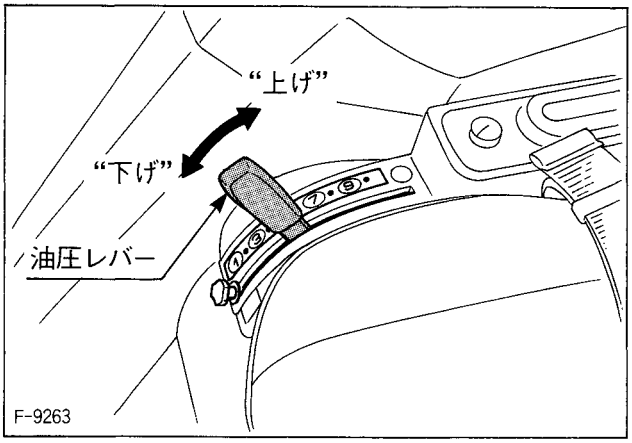
補 足

＊フローティングレバーを上げてカムホルダに引掛けるとき，引掛かり位置によって，フローティング機構が作用しない場合がありますので，次表を参考にして使い分けてください。

浅い耕うんの場合 (耕深目盛り４以下)	１段目で 作用します
普通耕うんの場合 (耕深目盛り４以上)	２段目で 作用します

一般に普通耕うん状態では，フローティングレバーを２段目に引掛かるまで上げないと，フローティング機構は作用しません。

❸後２輪があぜの上に乗るように，トラクタをバックさせてください。
❹油圧レバーを操作して，ロータリを下げてください。
❺このとき，後２輪はフローティング状態です。ポジションコントロールで，あらかじめ耕深を定めておき，その位置まで油圧レバーを下げて，耕うんを始めてください。
❻後２輪が，あぜからほ場に降りるまで耕うんし，ほ場に降りたとき一時停止してください。
❼油圧レバーを**“上げ”**にすると，フローティング状態から固定状態に，自動的に切換わります。
❽次に油圧レバーを**“下げ”**にすると，標準耕うん状態になり，今まで後２輪で定められていた所定の耕深になりますので，続けて耕うんしてください。

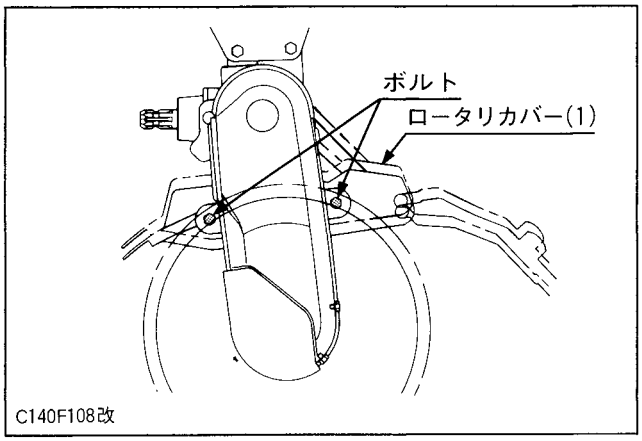


品　　名	品　　番
フローティング部品アッシ	70123-9911-2

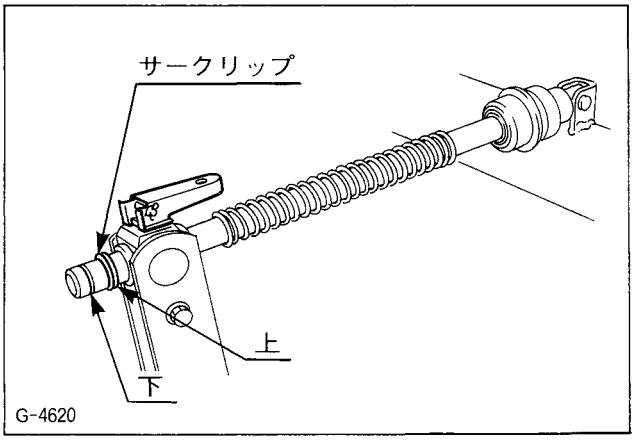
ロングカット爪の取付け (別売オプション)

耕うん爪をロングカット爪に交換すれば，中深耕が行なえます。(爪の回転半径が約25㎜大きくなります。)

(1)ロータリカバー(1)のボデーとの取付けボルト(４本)の位置を変更し，ロータリカバーを上げてください。また，サイドカバーも同時に上げ，ロータリサポートとロータリカバー(1)を装着しているステーの位置も変更してください。



(2)ロッド下部のサークリップを上の溝に変更してください。



(3)耕うん爪をロングカット爪に交換してください。

556号 ロングカット爪(１本)	R	99052-5911-1
	L	99052-5912-1
539号 ロングカット変形爪(１本)	R	99052-5913-1
	L	99052-5914-1

● 標準爪に戻す場合は，取付け順序の逆に行なってください。

重　要

＊ロータリカバー(1)の取付け位置が標準時(ロータリカバーが下がっている状態)では，ロングカット爪を使用しないでください。
＊SC,H仕様にはロングカット爪は使用できません。

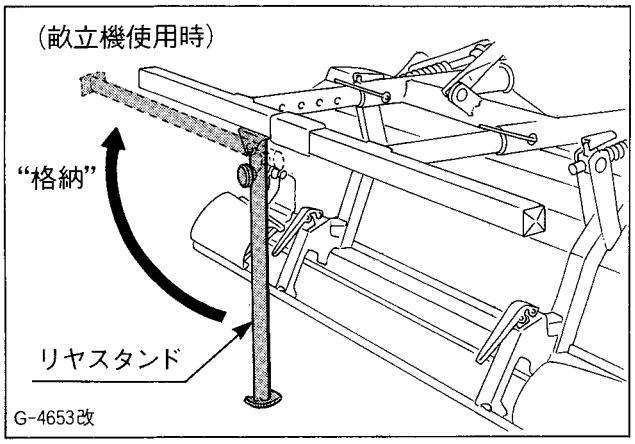
畝立機の取付け(別売オプション)

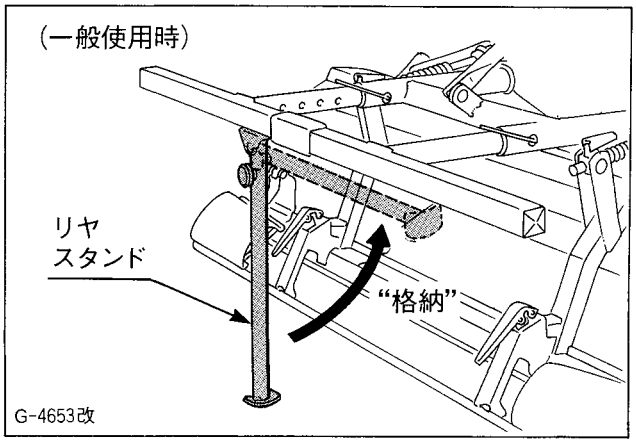
注 意

＊畝立機の反転は，必ずロータリを地上に近い位置に降ろし，キースイッチを“切”にしてエンジンを停止してから行なってください。
＊Q仕様トラクタには反転金具を使用しないでください。
＊畝立機を使用しない場合は取外してください。畝立機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起すおそれがあります。
＊畝立機を使用しない場合，カバーフタを外したままでロータリを使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

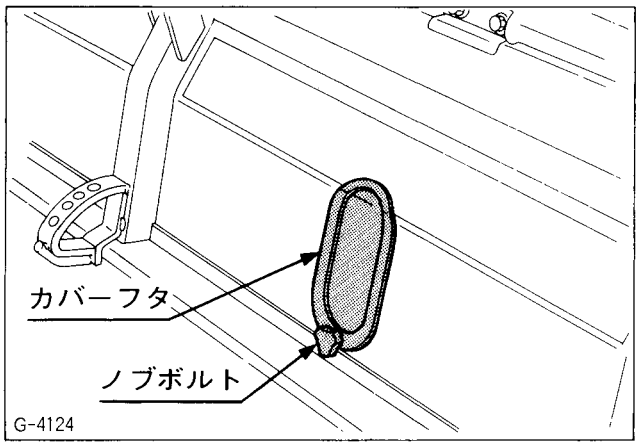
畝立機は，畝立て金具の穴に下から差込み，作業に応じて取付け高さを変え，ボルトで取付けてください。(畝立機と畝立て金具は**“アタッチメント一覧表”**を参照してください。)

❶爪の配列を２つ盛り耕法の配列にしてください。
(**“２つ盛り耕法”**の項を参照，Hタイプ除く)
❷リヤスタンドを外側方向へ格納してください。
(スタンド仕様)

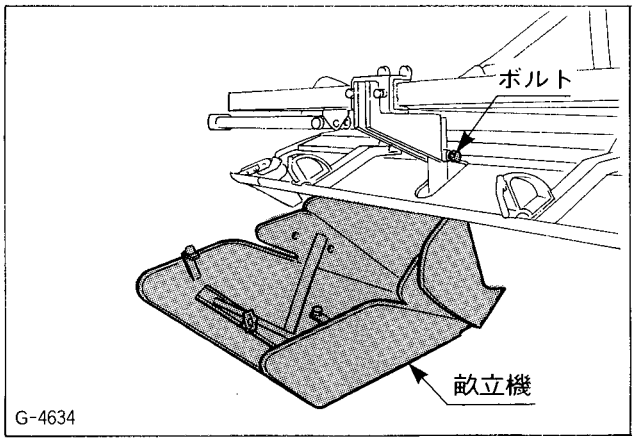




❸後２輪を取外してください。(後２輪仕様)
❹後２輪ホルダを，前後調整の１段目(１番縮めた状態)にしてください。(**“後２輪ホルダの前後調整”**の項を参照)
❺フラップカバーを取外してください。(**“ロータリカバーの調整”**の**“フラップカバーの取外し方”**の項を参照)
❻後部カバーのカバーフタを取外してください。



❼後２輪ホルダに畝立金具をピンでセットしてください。
❽ロータリカバーを上げ，オートハンガで固定してください。
❾後部カバーの下側から畝立機を畝立金具に取付け，ボルトで締付けてください。



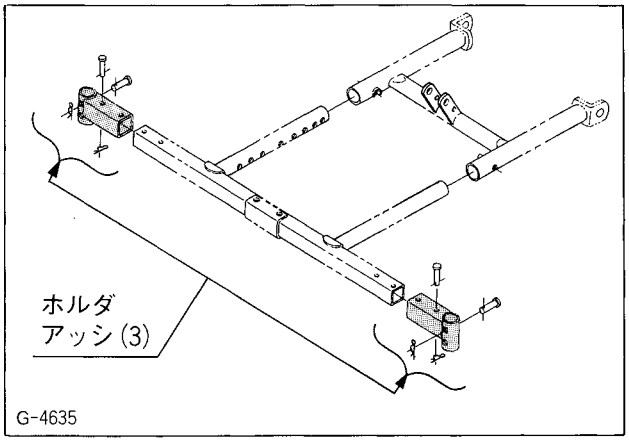
片培土機の取付け

注 意

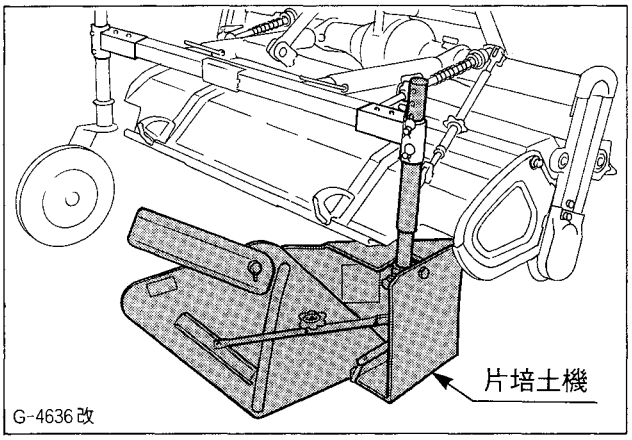
＊片培土機の反転は，必ずロータリを地上に近い位置に降ろし，キースイッチを“切”にして，エンジンを停止してから行なってください。
＊Q仕様トラクタには反転金具は使用しないでください。
＊片培土機を使用しない場合は取外してください。片培土機を上方に反転させての耕うん・移動は，傷害事故を引起すおそれがあります。

■取付け方

❶後２輪の右側を取外してください。(後２輪仕様)
❷後２輪ホルダを，前後調整の２段目又は３段目の位置にしてください。(**“後２輪ホルダの前後調整”**の項を参照)
❸フラップカバーを取外してください。(**“ロータリカバーの調整”**の**“フラップカバーの取外し方”**の項を参照)
❹補助カバーの右側を取外してください。
❺片培土機をホルダアッシ(3)にピン２本でセットしてください。
(スタンド仕様は，ホルダアッシ(3)は別売です。)
品名：ホルダアッシ(3)
品番：7C705-5730-2



G-4635



G-4636改

補　足

＊ロータリカバー(2)で整地しながら片培土作業をすると，引張り金具の長さが不足する場合がありますので，ロータリカバー(2)を片培土機の上に乗せてください。

逆転PTOの使用方法

トラクタの逆転PTOを使用して次の作業が行なえます。

(1)爪軸の巻付き草を除去する。
耕うん中に草などが巻付いて，耕深が取れなくなった場合，ロータリを持上げて，逆転で数分空転させると，草の巻付きがゆるみ取りやすくなります。

(2)軟弱地での土寄せ作業。
代かき作業などを行なう軟弱なほ場で，泥などが盛上がった場合，逆転PTOを使用して土寄せを行なうと効果があります。このとき，エンジン回転数1500min^{-1}(rpm)位で作業すると泥飛びも少なくなります。但し，バックする場合，カバーと泥や土が接触しない位置まで，ロータリ又はカバーを上げてください。

重　要

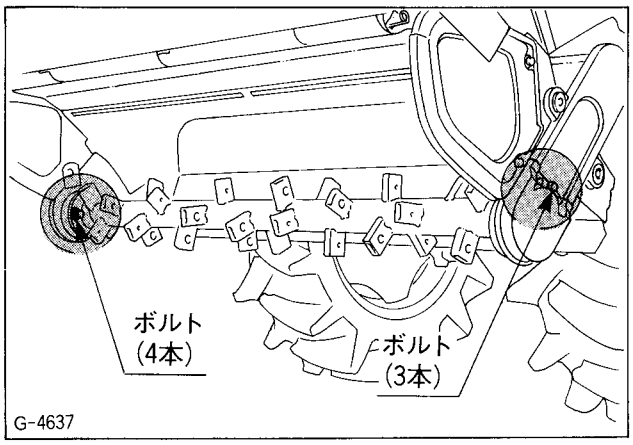
逆転PTOを使用して，次の作業は行なわないでください。ロータリ破損の原因になります。
＊逆転耕うん作業
＊未耕地及び石の多いほ場での土寄せ作業

爪軸交換のしかた

注 意

傷害事故の防止のため，爪軸交換をする場合，次のことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリを持上げ，落下調整グリップを右いっぱいに回して締込む。

(1)チェーンケース側爪軸取付けボルト(4本)，及びサイドフレーム側ベアリングケース取付けボルト(３本)をゆるめてください。
(2)落下調整グリップを少し左に回し，耕うん爪が水平地面上に付くまでゆっくりと降ろした後で，ボルトを外して爪軸を交換してください。
(3)このとき，別売りの爪軸交換スタンドアッシ(品番98606－48430)を使用すると，より簡単です。



重 要

＊取付けは，外したボルトが作業中にゆるまないように，確実に締付けてください。
【締付けトルク】
● 爪軸取付けボルト
チェンケース側 127.5~137.0N·m(13.0~14.0kgf·m)
サイドフレーム側 86.0~108.0N·m(8.80~11.0kgf·m)
● ベアリングケース取付けボルト
78.5~88.0N·m(8.00~9.00kgf·m)

補 足

＊爪軸は，爪軸取付けフランジの“L”の刻印が，チェーンケース側にくるように取付けてください。

普通爪の使用

重 要

＊ウルトラロータリ（Hタイプ）には使用できません。
＊普通爪を使用されるときは，草巻付き防止ワイヤは使用できませんので取外してください。

標準としてはなた爪を使用しますが，雑草やゴミなどの少ない乾田耕起用として普通爪を使うと，消費馬力が少なくてすみ，その上細土がより細かくなります。

ロータリ形式 / セット品番 / 普通爪	RM170G(E)	RM180G(E) (EA)	RM190G(E) (EA)
518号 99542-4941-1	36本	38本	38本
514号増幅R,L (R) 99542-4944-1 (L) 99542-4943-1	各１本		

※セット品番には，爪取付け部品(ボルト，ナット)は含みません。

作業前の点検について(日常点検)

警 告

＊安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。また紛失したり損傷した場合，交換してください。
巻込まれや切傷事故の原因になります。

点検箇所

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は毎日欠かさず行なってください。
※印は，別途作業要領が説明してあります。

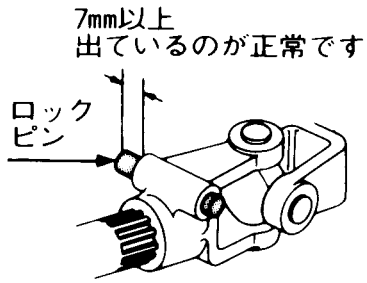
■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日，前使用時の異常箇所。
(2)ロータリの点検ポイント。
＊爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
＊草巻付き防止ワイヤのゆるみ(H, E仕様を除く)
＊ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
＊ユニバーサルジョイントのロックピンの確認 …… ※1
＊油もれ

点検のしかた

1ユニバーサルジョイントのロックピンの確認

ロックピンが正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が７㎜以上出ているかどうかを調べてください。



G-1574

ロータリの簡単な手入れと処置

定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って，必ず定期点検を実施してください。

注 意

傷害事故の防止のため，点検整備をする場合，次のことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリの落下防止のため，落下調整グリップを右いっぱいに回して締込む。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

No.	点検項目		アワーメータの表示時間						参照ページ
			50	100	150	200	250	300	
1	ギヤーケース	油量点検		○	○	○	○		29
		オイル交換	◎					○	
2	チェーンケース	油量点検		○	○	○	○		29
		オイル交換	◎					○	
3	グリースの補給 ● ユニバーサルジョイント ● アジャスタ(後２輪調整ネジ部) ● ホルダ(ジョイント)，ロータリ入力軸(スーパージョイント付) ● 後２輪のグリースニップル部(後２輪付) 注油 ● Ａフレーム各回動部 ● スプリングロックしゅう動部(Eタイプ除く) ● オートハンガしゅう動部，回動部 ● 草巻付き防止ワイヤのＵ金具部(H, Eタイプを除く)		○	○	○	○	○	○	30, 31
4	グリースの補給 ● 爪軸ベアリングケース				○			○	30

【注】◎印は，ならし運転時の50時間使用後に，必ず行なってください。

各部の油量点検と交換

使用するギヤーオイルは，必ず**“クボタ純オイル”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)

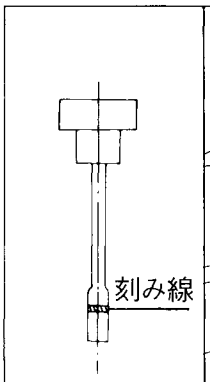
補　足

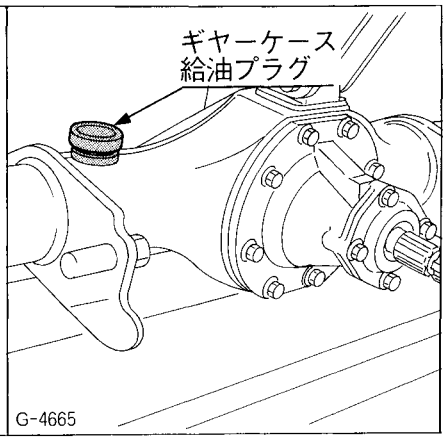
＊点検するときは，ロータリをトラクタに装着したまま，水平な地面に置いて行なってください。
傾いていると正確な量を示さないことがあります。

■ギヤーケース

◆油量点検のしかた

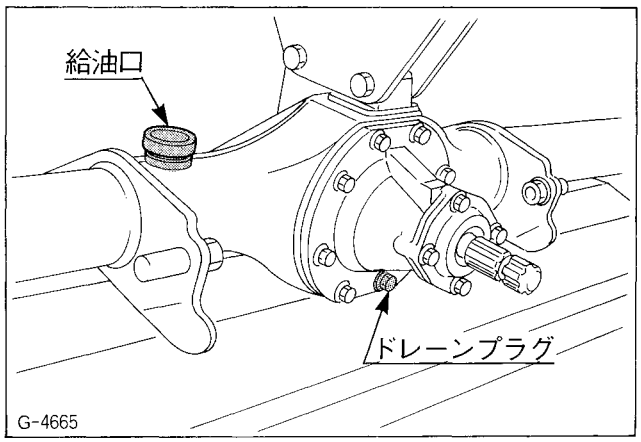
❶ロータリを降ろして給油プラグを抜き，オイルゲージの先端をきれいにふいて差込んでから再び抜き，**“刻み線”**までオイルがあるかを調べてください。
❷刻み線以下の場合は補給してください。





◆交換のしかた（2.5L）

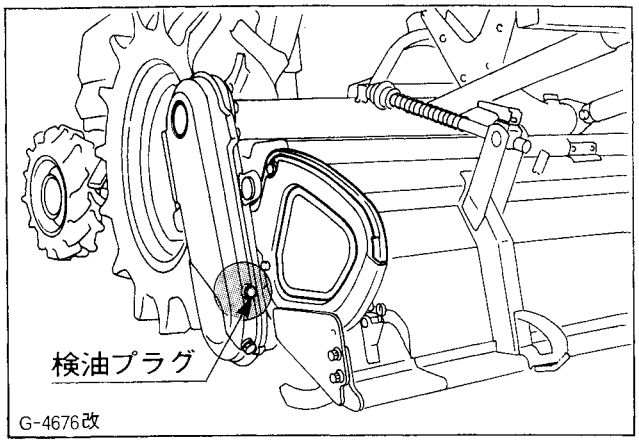
❶ドレーンプラグを外してオイルを出してください。オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は，すみやかに交換してください。
❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。



■チェーンケース

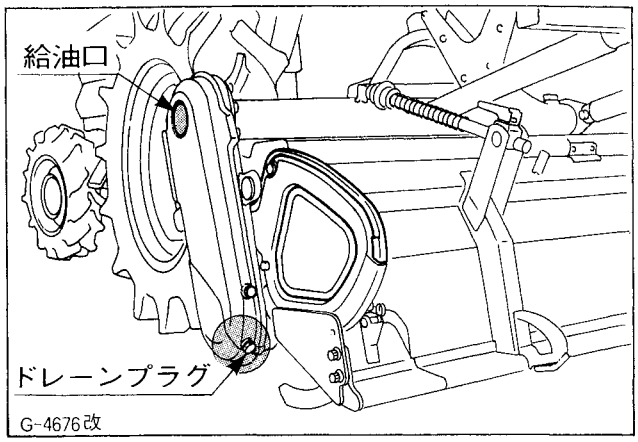
◆油量点検のしかた

❶ロータリを降ろして検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べてください。
❷検油口以下の場合は補給しますが，検油口以上には入れないでください。



◆交換のしかた(1.8L)

❶ドレーンプラグを外してオイルを出してください。オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は，すみやかに交換してください。
❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。



グリースの補給

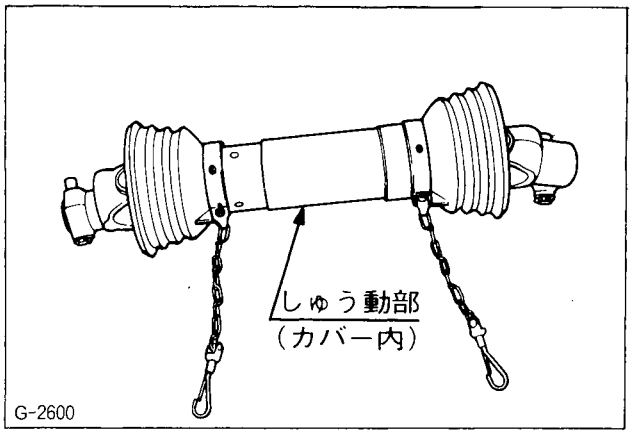
通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。但し，代かき作業などで泥水に入ったときは，作業終了後必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。(**“推奨オイル・グリース一覧表”**の項を参照)

■ユニバーサルジョイント

しゅう動部は，ジョイントのオス・メス部を切離して補給してください。

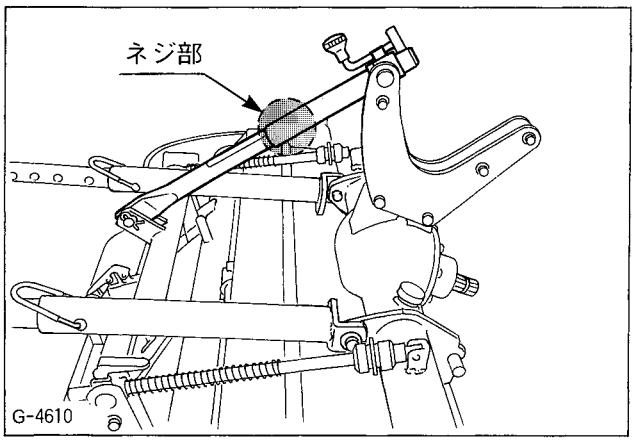
補　足

＊PTO軸・ロータリ側の軸にも，薄く塗布してください。



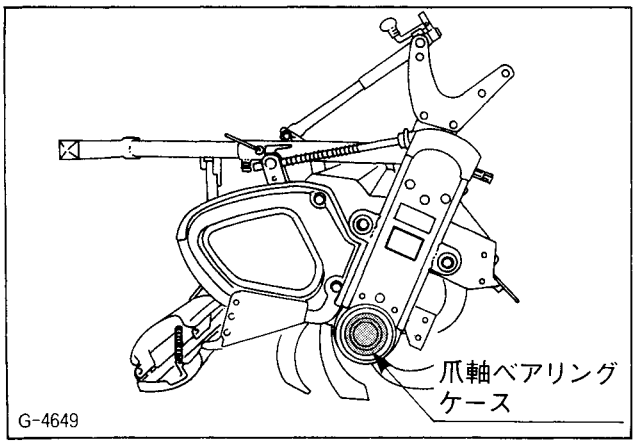
■アジャスタ(後2輪調整ネジ部)

シャーシグリースを適量補給してください。
(アジャスタと調整ネジを切離して，ネジ部にグリースを塗布します。)



■爪軸ベアリングケース

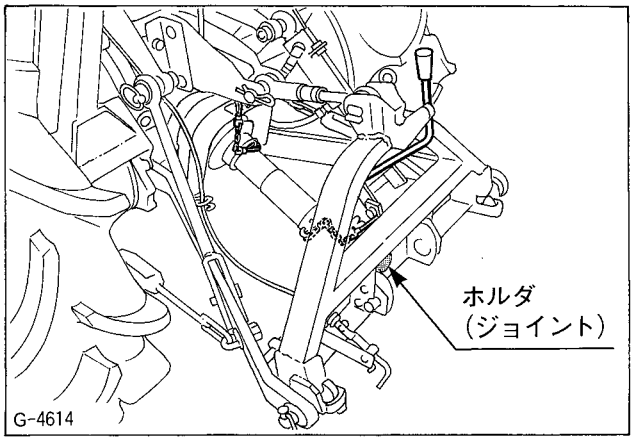
サイドフレームの保護カバーとキャップを外し，ベアリンググリースを補給してください。



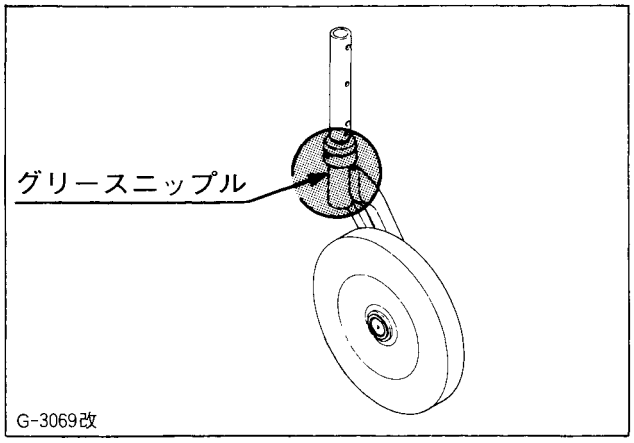
■ホルダ(ジョイント)，ロータリ入力軸 (スーパージョイント付)

❶湿田耕うんや代かき作業後は，必ずロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)内とロータリ入力軸の，泥をきれいに水で洗い流し，下図の箇所にグリースを適量塗布してください。

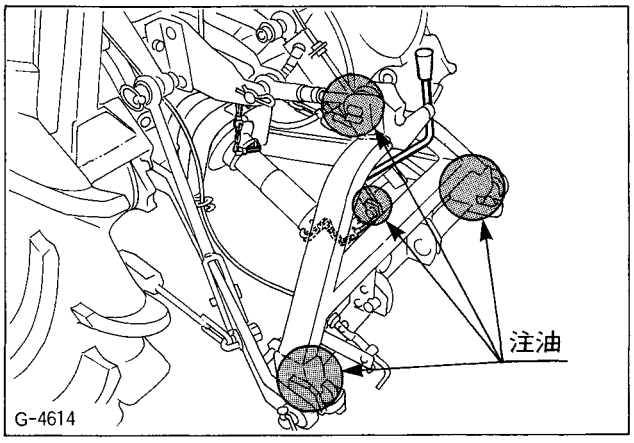
❷定期的にロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)とロータリ入力軸の，下図の箇所にグリースを適量塗布してください。



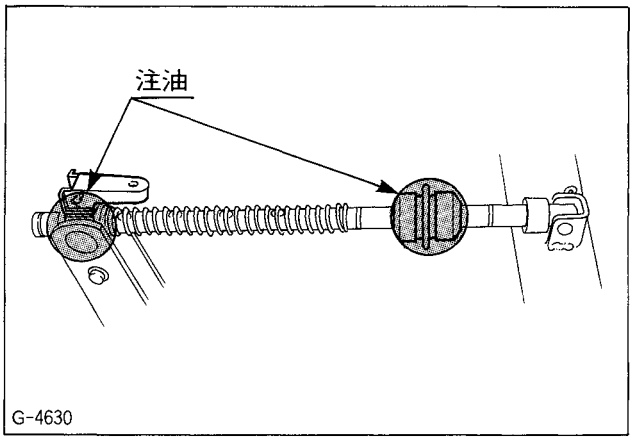
■後２輪のグリースニップル部(後２輪仕様)



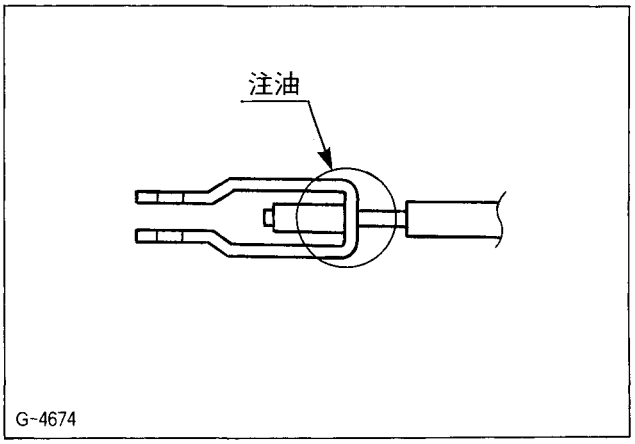
■Aフレーム各回動部



■スプリングロックしゅう動部(Eタイプ除く)
■オートハンガしゅう動，回動部



■草巻付き防止ワイヤのU金具部
(H，Eタイプを除く)



シールの組換え

整備などの目的でギヤーケース，チェーンケースなどを分解される場合は，必ず新しいオイルシール，ゴムキャップ，ゴム付座金，液状ガスケットなどと交換してください。オイルもれの原因となります。
液状ガスケットはスリーボンド1206B又は1208D相当品を使用してください。

付　表

主要諸元

■標準ロータリ

型式	RM 170G-H	RM 170G-E	RM170G		RM 180G-H	RM 180G-E(A)	RM180G		RM190G		RM 190G-E(A)
区分 (SC)マッドレスカバー	標準	標準	標準	SC	標準	標準	標準	SC	標準	SC	標準
駆動方式	サイドドライブ										
機体寸法 全長(mm)	1000 (後2輪仕様：1300)										
機体寸法 全幅(mm)	1892				1992				2092		
機体寸法 全高(mm)	1050										
質量(kg)	278	(298)	283	300	285	290	290	318	297	316	297
(後2輪仕様)	(293)		(298)	(315)	(300)	(305)	(305)	(333)	(312)	(331)	(312)
適応トラクタ kW(PS)	26～35 (35～47)										
装着装置の種類	特殊3点リンク式										
標準耕幅(cm)	172				182				192		
標準耕深(cm)	～18										
入力軸回転数 (min^{-1}(rpm))	544～1252										
変速方法	―										
耕うん軸回転数 min^{-1}(rpm)※ GL367 GL417 GL467	176 〔正転：177，263，408　逆転：263〕										
耕うん爪取付方法	ホルダタイプ										
耕うん爪の種類と本数	2595号なた爪 R·L 各16本	581号なた爪 R·L 各18本	50A号なた爪 R·L各18本		2595号なた爪 R·L 各16本	581号なた爪 R·L 各19本	50A号なた爪 R·L各19本		50A号なた爪 R·L各19本		581号なた爪 R·L 各19本
	2595S号増幅爪 R·L 各2本	583号増幅爪 R·L 各1本	50C号増幅爪 R·L各1本		2595S号増幅爪 R·L 各2本	583号増幅爪 R·L 各1本	50C号増幅爪 R·L各1本		50C号なた爪 R·L各1本		583号増幅爪 R·L 各1本
耕うん爪の外径(cm)	50										
耕深調節機構	後方双尾輪式，モンローマチックオート式(オート仕様)										
標準作業速度(km/h)	0.5～4.9										
耕うん作業能率(分/10a) 6000 W·V·E	9.5～93				9～88				8.5～83		

W：標準耕幅(cm)，V：標準作業速度(km/h)，E：ほ場作業効率(0.75)

※：入力軸540min^{-1}(rpm)のとき

〔　〕内は各PTO変速での回転数

標準付属品

取扱説明書	1
保証書	1
スパナ (8-10)	※1

※H, E仕様は除く。

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応形式										
					RM 170G-H	RM 170G-E	RM 170G		RM 180G-H	RM 180G-E(A)	RM 180G		RM 190G		RM 190G-E(A)
					標準	標準	標準	SC	標準	標準	標準	SC	標準	SC	標準
整地	99772-4270-0	代かきセット４	整地幅185cm 延長幅左右各60cm		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99772-4470-0	延長代かき整地板	延長幅左右各20cm	代かきセット３・４	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99022-4170-0	くし形整地板140アッシ	整地幅140cm 延長幅左右各49.7cm		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99822-3870-0	くし形40延長	延長幅左右各40cm	くし形整地板140アッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99042-1370-0	４号畝立機	溝幅12cm，底板無 羽根長さ85.4cm	畝立金具アッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99042-1470-0	５号畝立機	溝幅15cm，底板無 羽根長さ86.5cm	畝立金具アッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99042-1170-0	７号畝立機	溝幅21cm，底板無 羽根長さ92cm	畝立金具アッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99042-1770-0	畝立金具アッシ	１連畝立て用	4号･5号･7号畝立機	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99512-7370-0	40号培土機アッシ	溝幅12cm	２連培土金具	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99772-1570-0	２連培土金具	２連畝立て用	40号培土機アッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99062-7100-0	片培土機２アッシ	溝幅16cm		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
耕うん	99052-5911-0	556号 ロングカット爪R	581号なた爪R との交換用(１本)	ロータリカバー１の付換えが必要(20㎜上方に上げる)	—	○	○	—	—	○	○	—	○	—	○
	99052-5912-0	556号 ロングカット爪L	581号なた爪L との交換用(１本)		—	○	○	—	—	○	○	—	○	—	○
	99052-5913-0	539号 ロングカット爪R	583号なた爪R との交換用(１本)		—	○	○	—	—	○	○	—	○	—	○
	99052-5914-0	539号 ロングカット爪L	583号なた爪L との交換用(１本)		—	○	○	—	—	○	○	—	○	—	○
	70123-9901-0	増速スプロケットアッシ	12Tと14Tで約17％増速する	70398-5416△ 12T 70123-9902△ 14T	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	99242-6800-1	サイドドライブ延長爪軸アッシ	サイドフレーム(右)側15cm延長		—	—	○	○	—	—	○	○	○	○	—
マルチ	99061-8100-0	平畝マルチ			—	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—

推奨オイル・グリース一覧表

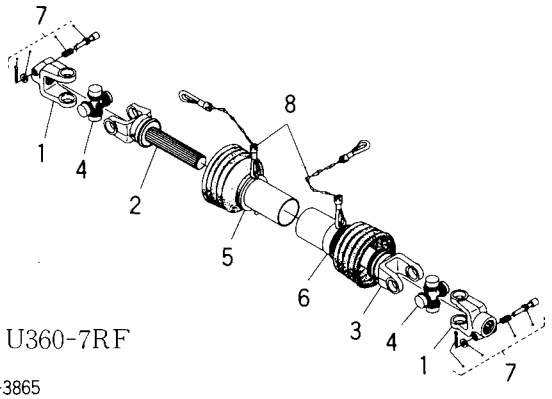
■ギヤーオイル90番

メーカ	ギヤーオイル
日本石油	クボタ純オイル(ミッション用) M90
コスモ石油	クボタ純オイル(ミッション用) M90
ジャパンエナジー	クボタ純オイル(ミッション用) M90
昭和シェル石油	クボタ純オイル(ミッション用) M90
富士興産	クボタ純オイル(ミッション用) M90

■グリース

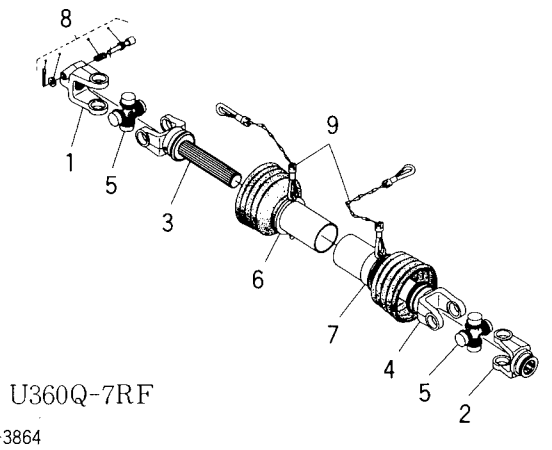
メーカ	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAP-No.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソスタンダード石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホイルベアリングHDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

主な消耗部品一覧表



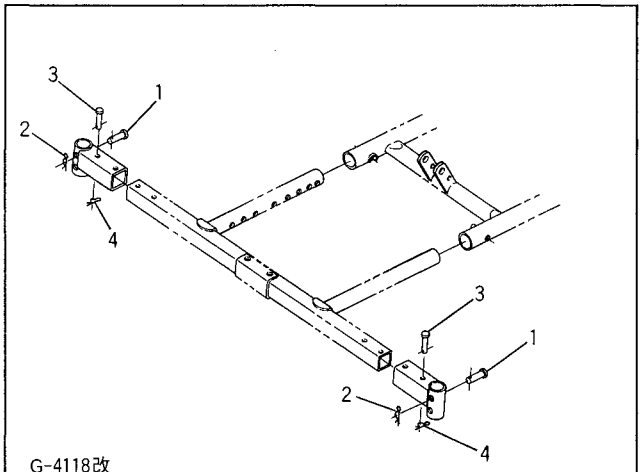
G-3865

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイントアッシ	7E700-5121-2	1
1	ヨーク	70889-5122-1	2
2	ヨーク(シャフト)	7E700-5123-1	1
3	ヨーク(スリーブ)	70889-5124-1	1
4	スパイダアッシ	70889-5125-1	2
5	カバー(S)	7E700-5126-1	1
6	カバー(L)	70889-5127-1	1
7	ロックピン(アッシ)	70889-5128-1	2
8	チェーンアッシ	70889-5129-1	2



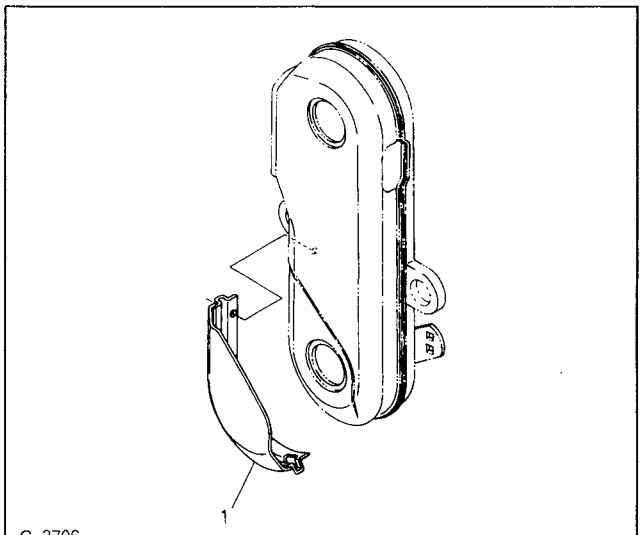
G-3864

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイントアッシ	7E700-5221-2	1
1	ヨーク	70889-5122-1	1
2	ヨーク(2)	7E700-5223-1	1
3	ヨーク(シャフト)	7E700-5123-1	1
4	ヨーク(スリーブ)	70889-5124-1	1
5	スパイダアッシ	70889-5125-1	2
6	カバー(S)	7E700-5126-1	1
7	カバー(L)	70889-5127-1	1
8	ロックピン(アッシ)	70889-5128-1	1
9	チェーンアッシ	70889-5129-1	2



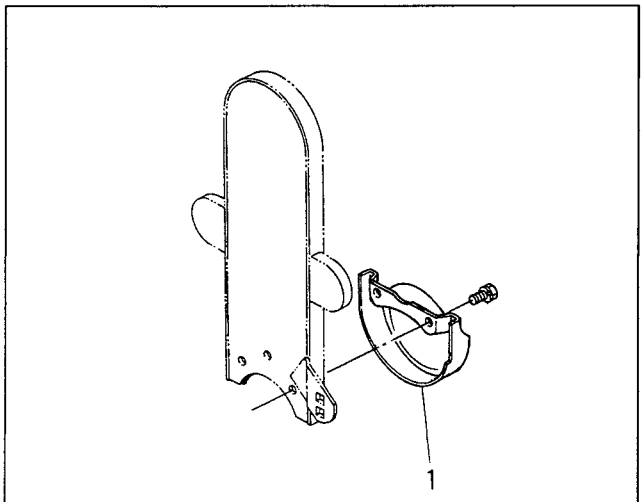
G-4118改

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ピン	70155-5732-2	4
2	スナップピン	7040-5618-3	4
3	頭付きピン	05122-51070	4
4	スナップピン	70404-5618-3	4



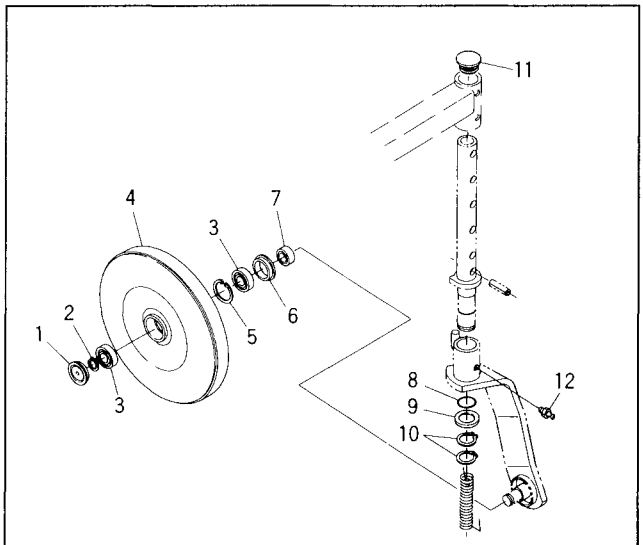
G-3706

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(1，ホゴ)	70123-5451-3	1



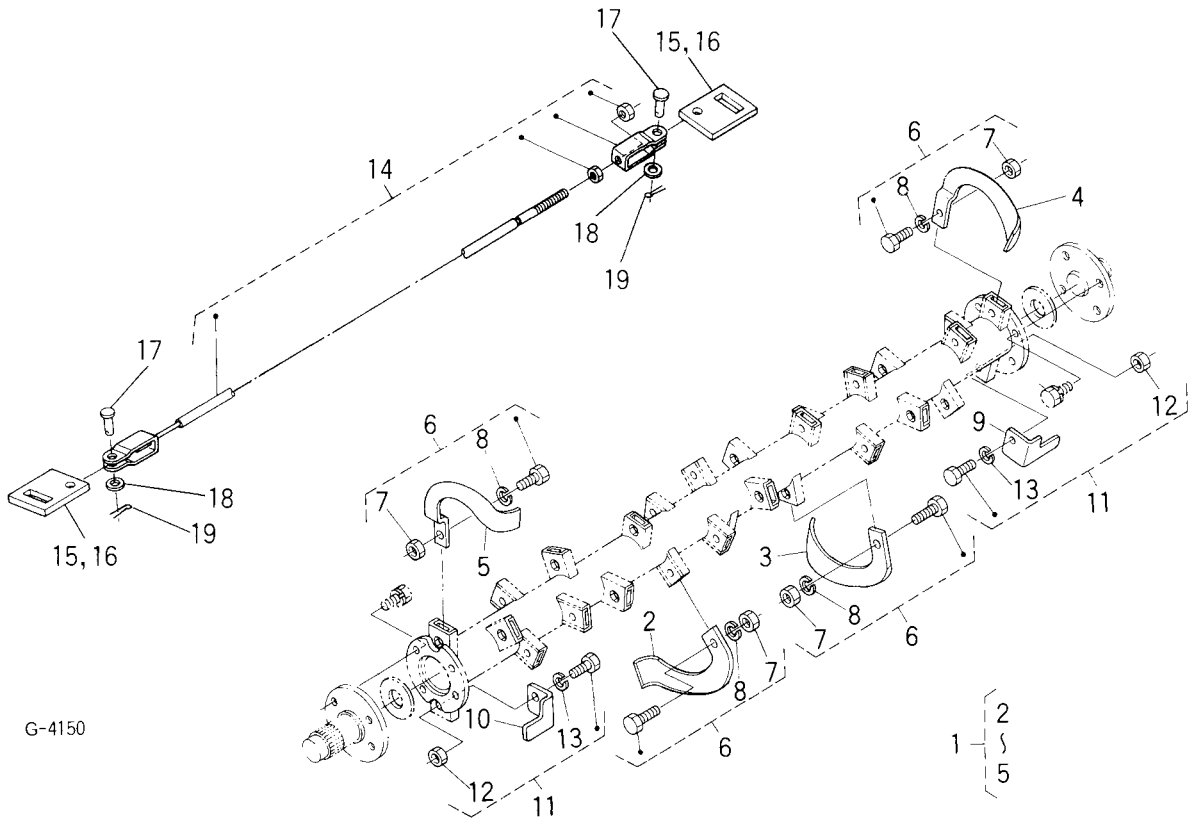
G-4650

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(サイド，ホゴ)	7C605-5527-1	1

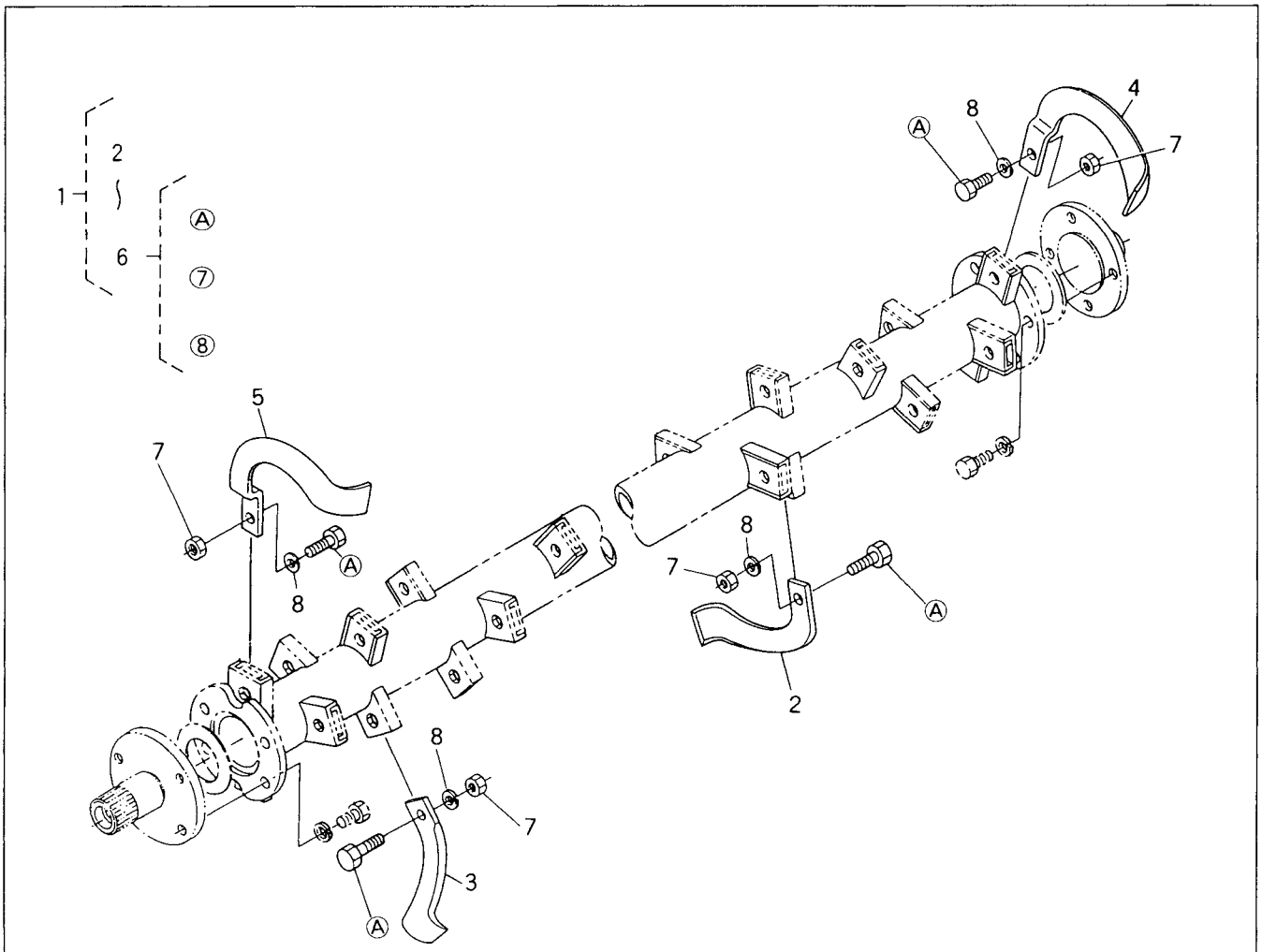


G-4151

図番	品　　名	品　　番	個数
1	キャップ	70451-5746-1	1
2	軸サークリップ	04612-10200	1
3	ボールベアリング	08131-06004	2
4	後２輪	70155-5744-1	1
5	穴サークリップ	04611-10420	1
6	車軸シール	41011-1552-3	1
7	オイルシール	09500-25428	1
8	Ｏリング	04811-50300	1
9	カバー(サークリップ)	70155-5745-2	1
10	軸サークリップ	04612-00340	2
11	キャップ	70155-5749-2	1
12	グリースニップル	50441-1132-1	1

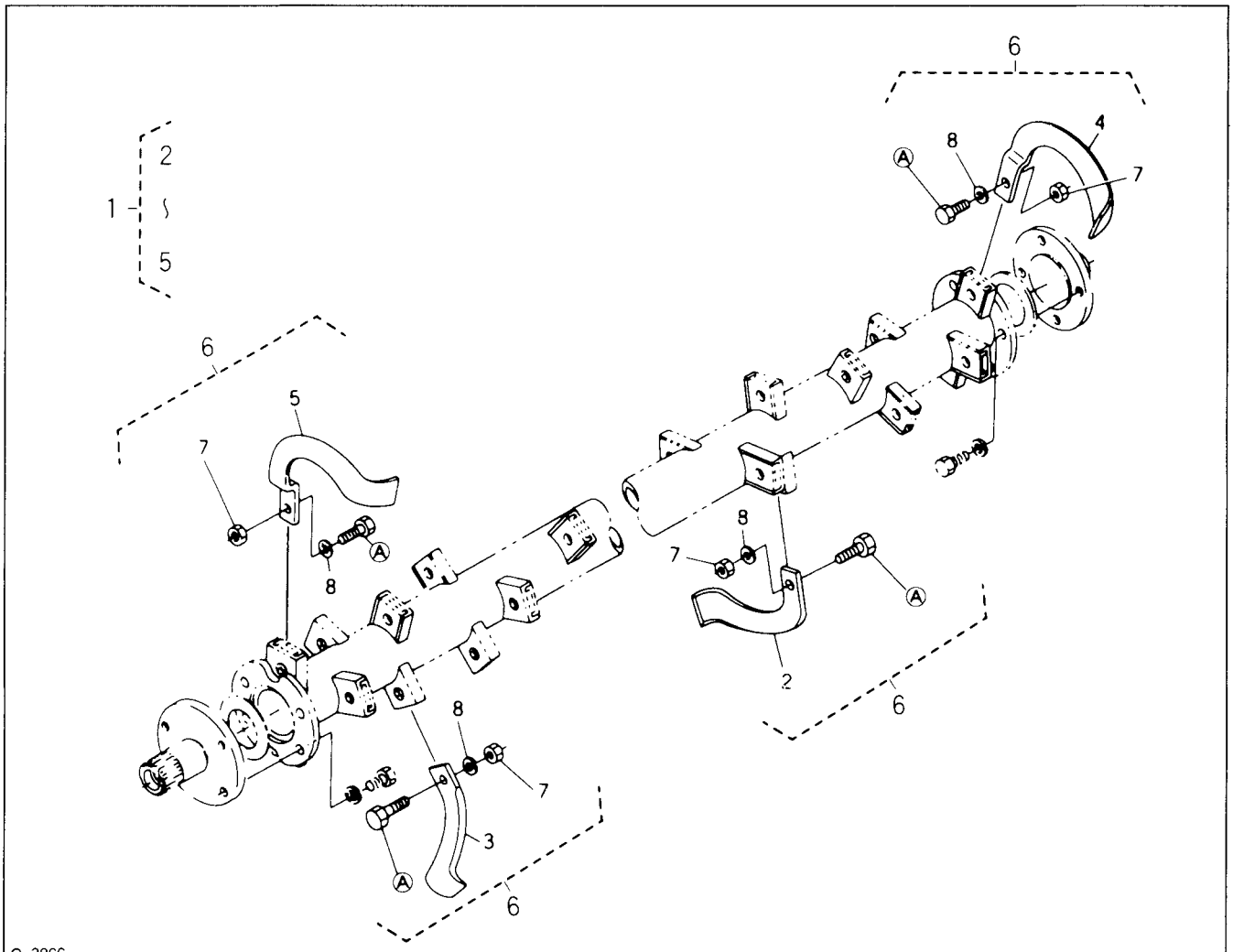


図番	品　　名	品　　番	数量			備　考
			RM170G	RM180G	RM190G	
1	耕うん爪セット	7C606-5545-1	1	—	—	②～⑤
1	耕うん爪セット	7C604-5547-1	—	1	1	②～⑤
2	耕うん爪(50A右)	7C605-5541-2	18	19	19	
3	耕うん爪(50A左)	7C605-5542-2	18	19	19	
4	耕うん爪(50C右)	7C605-5543-2	1	1	1	
5	耕うん爪(50C左)	7C605-5544-2	1	1	1	
6	爪取付け部品 1	70461-5555-1	36	38	38	⑦⑧
7	爪取付けナット	64135-9519-3	36	38	38	
8	バネ座金	04512-50100	36	38	38	
9	ブレード(ターフカット右)	7C605-5536-1	1	1	1	
10	ブレード(ターフカット左)	7E607-5537-1	1	1	1	
11	爪取付け部品 1	7C705-5555-1	2	2	2	⑫⑬
12	爪取付けナット	64135-9519-3	2	2	2	
13	バネ座金	04512-50100	2	2	2	
14	ワイヤ，アッシ(17)	7C607-5550-0	2	—	—	
14	ワイヤ，アッシ(18)	7E608-5550-0	—	2	—	
14	ワイヤ，アッシ(19)	7E609-5550-0	—	—	2	
15	ステー(50A)	7C605-5552-0	2	2	2	
16	ステー(50C)	7C605-5553-0	2	2	2	
17	アタマツキピン	05122-50820	4	4	4	
18	ヒラザガネ	04012-50080	4	4	4	
19	ワリピン	05511-50215	4	4	4	



G-3866

図番	品　　名	品　　番	数　　量			備　考
			RM170G-E	RM180G-E(A)	RM190G-E(A)	
1	なた爪アッシ	70471-5540-1	1	—	—	②～⑥
1	なた爪アッシ	70561-5540-2	—	1	1	
2	581号なた爪右	70451-5541-5	18	19	19	
3	581号なた爪左	70451-5542-5	18	19	19	
4	583号増幅爪右	70461-5543-4	1	1	1	
5	583号増幅爪左	70461-5544-4	1	1	1	
6	爪取付け部品 1	70461-5555-1	38	40	40	Ⓐ⑦⑧
7	爪取付けナット	64135-9519-3	38	40	40	
8	バネ座金	04512-50100	38	40	40	



G-3866

図番	品　　名	品　　番	数　量		備　考
			RM170G-H	RM180G-H	
1	耕うん爪セット	7C657-5545-1	1	1	②～⑤
2	耕うん爪（2595右）	7C655-5541-1	16	16	
3	耕うん爪（2595左）	7C655-5542-1	16	16	
4	耕うん爪（2595S右）	7C655-5543-1	2	2	
5	耕うん爪（2595S左）	7C655-5544-1	2	2	
6	爪取付け部品 1	70461-5555-1	36	36	Ⓐ⑦⑧
7	爪取付けナット	64135-9519-3	36	36	
8	バネ座金	04512-50100	36	36	

7E607-5752-3最終頁

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-8601	電(06) 648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103-8310	電(03) 3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060-0003	電(011) 214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980-0014	電(022) 267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450-0002	電(052) 564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812-0011	電(092) 473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063-0061	電(011) 662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-1221	電(022) 384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338-0832	電(048) 862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590-0806	電(0722) 41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703-8216	電(0862) 79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092) 606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590-0823	電(0722) 41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321-0905	電(0286) 61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-2402	電(0297) 52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573-0004	電(0720) 40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592-8331	電(0722) 45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-2402	電(0297) 52-0510
北海道部品センター	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-1274	電(011) 376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092) 606-3161

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011-0901	電(0188) 45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182番地の１	〒981-1221	電(022) 384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338-0832	電(048) 862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950-0992	電(025) 285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924-0038	電(0762) 75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１番地の１	〒491-0031	電(0586) 24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590-0806	電(0722) 41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683-0804	電(0859) 33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275番地	〒703-8216	電(0862) 79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-0102	電(0878) 74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-0213	電(092) 606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-4147	電(096) 357-6181

品番　7E607—5752—3

Kubota